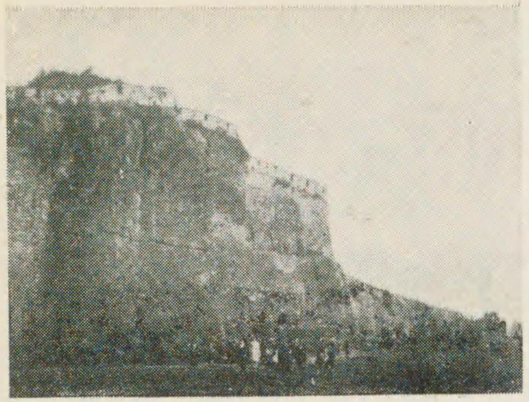
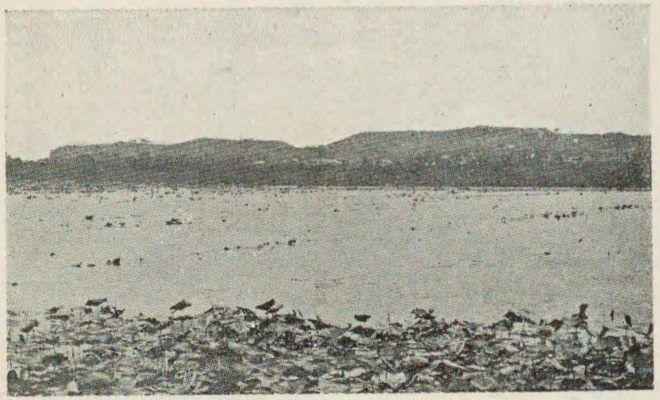
(31)南京の西部にあつて、初め吳の孫權の據つたところ。後に晉はこれを陷れて、吳を滅し、天下を統一したのです。

(32)これも南京にあります。この圖は(31)と共に三國の吳以來、永く南方の都となつた今の南京(昔の建業、建康の有樣を示さうとするために出したものです。莫愁といふのは、梁の武帝その他の詩人に、うたはれた美人の名によつたものだと申します。

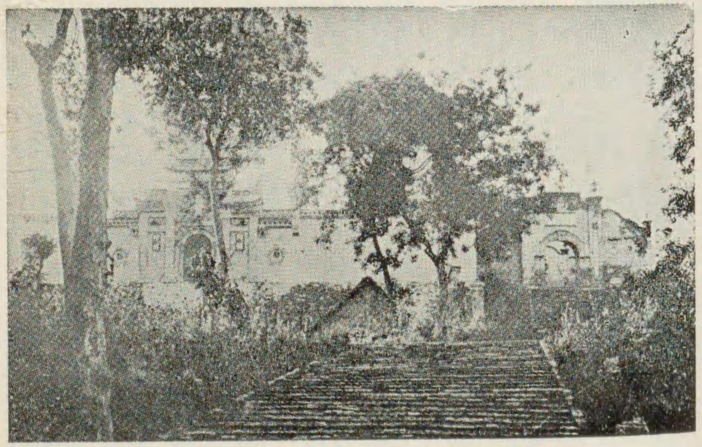
(33)南京の鷄鳴寺。此の寺は初め南朝の宋の天子の建てたものといはれてゐます。南朝では佛教が盛であつたといふことは、本文で一言しました。唐の詩人は、南朝四百八十寺」などと、此の南京の寺院の多かつたことを歌ひました。かういふ南方の寺院の見本として、また南京の風景を示すものとして入れたものです。



(31) 石頭城(南京)



(32) 莫愁湖(南京)



(33) 南京の鷄鳴寺

必死を極めた東晋の軍に、もろくも敗られてしまひ、王は命からがら都の長安に逃げ歸りました。そこでまた多くの國が競ひ立ち、前秦はやがて滅ぼされて、北方には又々大嵐が起りました。

東晋は南下の大軍を擊退して、一いきつきましたが、其の安心が禍で、内亂がつゞいて起りました。さきに桓溫といふ大將の如きは、「男子と生れたからには、美名を百世の後にのこすことが出來なければ、いつそのこと、醜名でもいゝからほんを企てました。それは成功しませんでしたが、こんな父をもちましたから、其の子は、とう〳〵國にそむいて自ら皇帝を稱し大亂をおこしました。かういふ亂を平げて功のあつた劉裕といふ將軍は、つひに東晋を滅して宋といふ國を建てました（これは四二〇年のことで、日本では第十

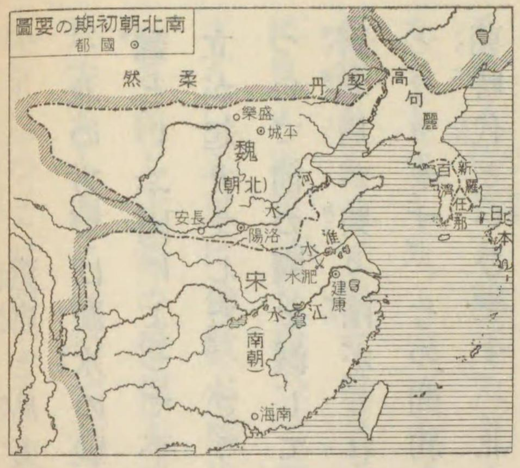
九代の九恭天皇の御世。

この北に興亡した國々の王の中には、篤く佛教を信じた人も少くなく、寺塔を建てたり、えらい坊さんを西域から呼んで布教させたりしました。中でもインドから來た佛圖澄といふ僧は、不思議な術をもつて居て、幾日も幾日も、食をとらないでも居られるし、目に見えぬ鬼神を使つて、不思議を現はしたりしたといふことです。さういふ風に、佛教が盛になりますと、インドに入つて巡禮をしたいと願ふ支那の僧侶も出ました。法顯といふ人の如きはそれで、長安から西に向つて、インドに入り、十數年の後、セイロン島から、南洋を通つて歸朝しました。その旅行の苦みはいふまでもありませんが、信仰の熱情はかういふ冒險をもやらせたのです。

索虜と島夷

北の方では淝水の戰後の騷亂が、四三九年、鮮卑民族の建てた後魏といふ國によつて平定され、支那には南の宋と、この後魏との對立が起りました。さうして南では宋の後に、南齊、梁、陳と三國が相ついで前の國を滅して立ち、北では後魏が東西に分れ、それから北齊、北周が興り、隋がこれに代り、其の隋がまた南北を統一することとなります。その間約百五十年でした。この分立の時代を南北朝時代といひます。北方民族は、今の女の子のおさげの様に、髪を編んで後に垂らしてゐるので、南朝の人は、之れを索虜と惡口をいひました。索を下げてる野蠻人といふことなのです。北方民族

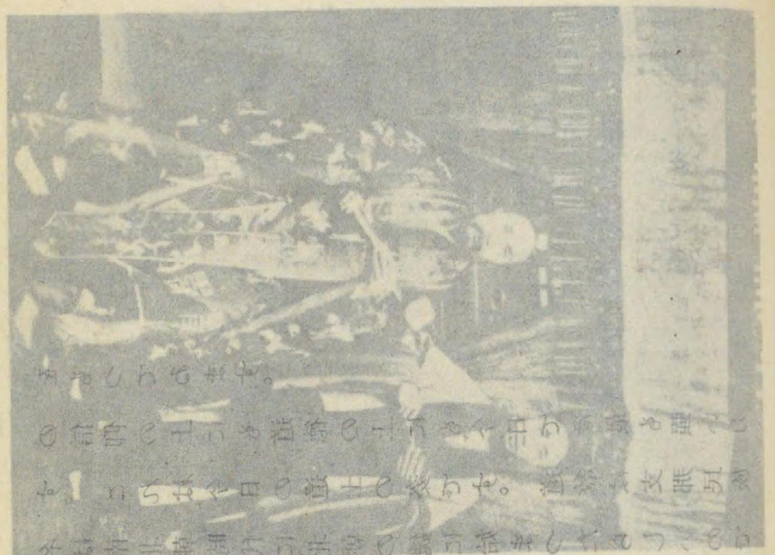
も南朝を野蠻人扱ひにして、島夷と呼びました。南の方は川や湖が多く、その地は島みたいだといふところから、島に住んでる野蠻人といつたのです。



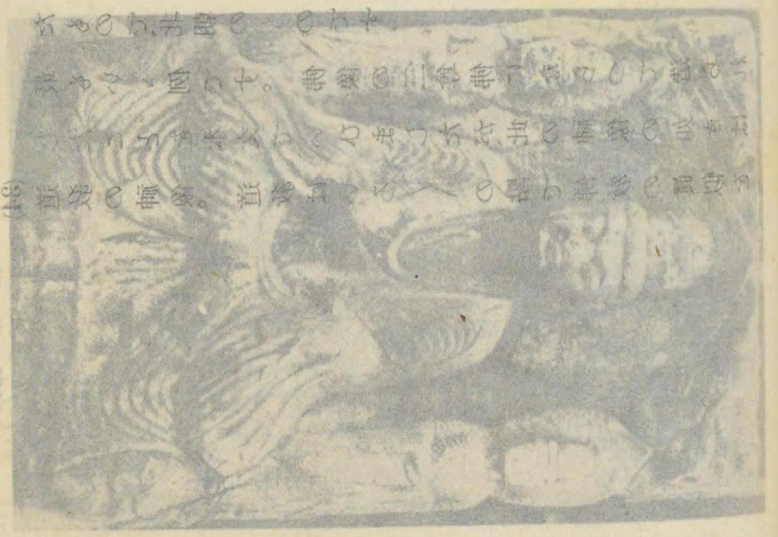
さてこの南北に起つた國家の間には、戰爭もありましたし、北朝ではその上、新に北の蒙古地方に勢力を振つて來た柔然族とか、ついでは突厥民族とかいふ北方民族とも戰をしたり和を結んだり、面倒がありました。北周の外戚の楊堅といふものが、北周を滅して隋といふ國を建て、やがて南朝の陳をも滅して、五八九年統一を遂げました。

此の時代は、前から引つゞいて來た外民族が、支那の高い文明によつて、その知識や生活を向上したこと、いふまでもありません。さうしてどれもこれも、漢人風に同化して來ました。中にも後魏の孝文帝といふ人は、鮮卑民族の固有の服裝や、言葉を用ゐてはならない、その名前も漢人風にせよともいひ、更に漢民族との結婚をも命令しました。さういふ傾向もあつた一方には、北方の風習などが、いつとはなしに漢民族の中にも、行はれるやうになりまして、例へば馬に乘ることなどは、この時分から盛になりました。今までは室の中では座ぶとんみたいな敷物をしいて床に坐る習慣でありましたものが、次第に椅子を用ゐて腰をかけるやうになつて來ました。これも外民族の感化だといはれて居ります。

それから南北どちらも、この時代は佛教が盛で、ひろく行はれました。皆さんのよく知つてるあの達磨は、この南朝の梁のときに、インドから海を渡つて來て、禪宗を傳へた名僧なのです。その影響のことは後でまたいひませう。それから道教といふ宗教が興つて來ました。この教は、支那に大昔からあつた山川などを崇拜する教や、その他いろ〳〵の迷信、まじなひや仙人の術などをよせ集めて、それを前にいひました老子の教にひきつけて、後漢の末に出來たものです。その後だん〴〵佛教の形式なども、とり入れましたが、北朝の初め寇謙之といふ人が出て、立派な宗教とし、一時はまるで國教のやうな勢力を得ました。此の教は、修養によつて欲心を去り災を避けて、不老不死に至るのを理想とするものです。



(33) 道教の寺を道觀(あんへせう)といふ、僧を道士(あんつ)といふ。其の



(34) 像神の教道

それから南北どちらでひろく行はれました。皆さんのよくあるインドから海を渡つてあるいて、南朝の梁のときに、響のことは後でまたいたします。

(34) 道教の神像。道教はいろ〳〵人の術などをよせつけて、後漢の末に出來たものです。その影響のことは後でまたいたします。

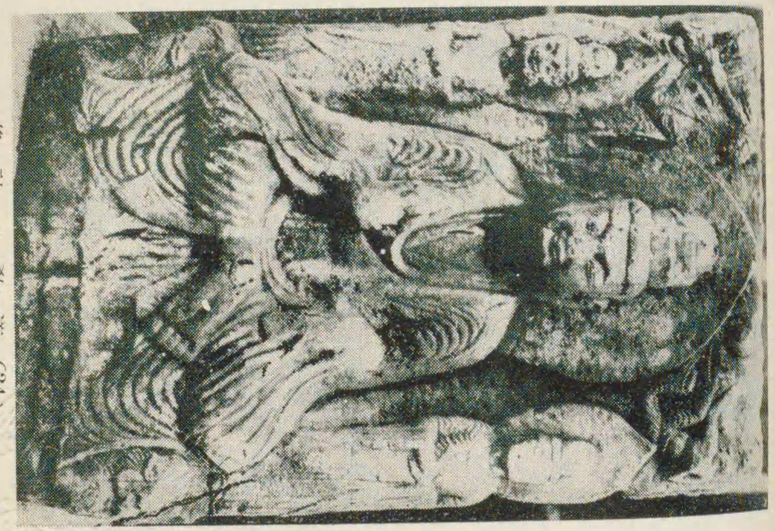
(35) 道教の寺を道觀（だうくわん）といひ、僧を道士（だうし）といひます。其の名は南北朝時代に、北朝の魏に始まつたらしいのです。

最もいゝ例です。佛像の三尊佛にならつて造られたものです。

道教の寺を道觀（だうくわん）といひ、僧を道士（だうし）といひます。其の信仰の上にも道徳の上にも、今日では最も強い力をもつてあるのです。

(二七)

土道の代現（35）



像神の教道（34）

實際に於いて、今日まで漢民族の信仰や、道徳の本ともなつてゐるものです。支那人のほんとうの心持を調べるには、この教をよく研究しなければなりません。

かういふ風に宗教は盛ではありましたが、人情は極めてあらく、北朝でも南朝でも、皇帝達が不幸な最期を遂げた者の多かつたことは、いかなる亂世にもまさつて居ます。北朝では二十六人の中十五人も殺され、南朝では二十四人の中十一人が、同樣の運命にあつて居ます。

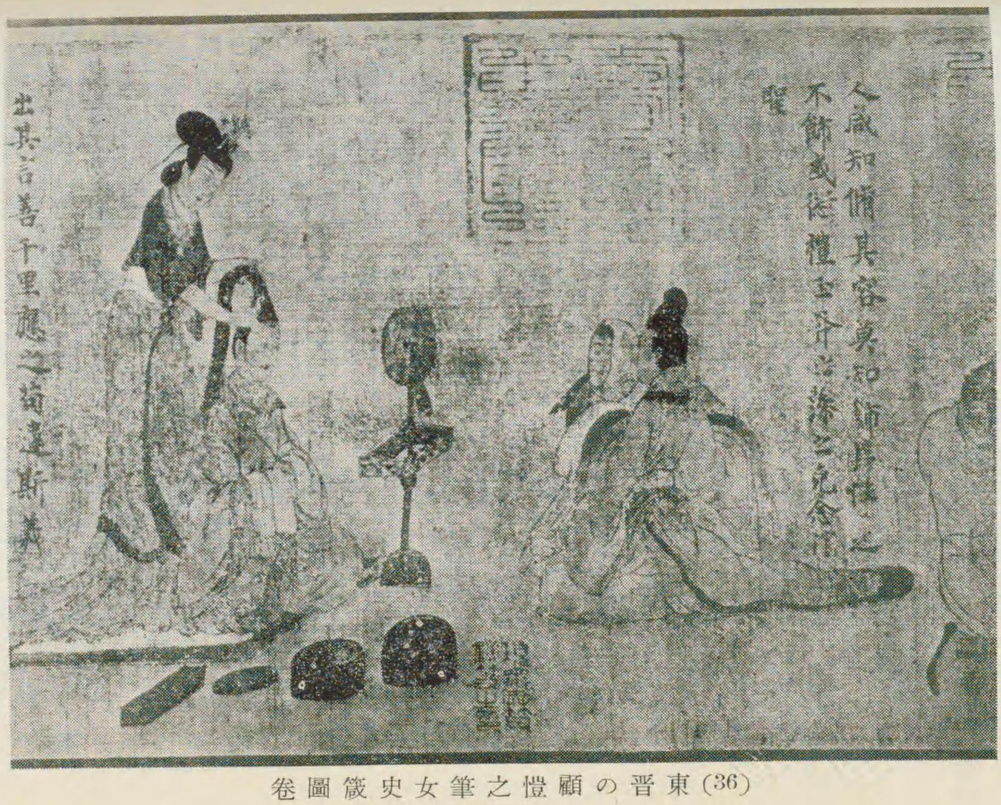
筆の力と信仰の熱

晋の時代から南北朝にかけては、支那は藝術の上に、いろ〳〵な

すぐれた人々を生み出しました。詩人としては東晋の陶淵明といふ人が最も有名です。ごくやさしい言葉の中に、豊な情味のある氣分をあらはしました。殊に役人などをして上役のものから、くだらぬことをいはれるのを不快に思つて、そんなものはさらりとすてゝ故郷に歸り、自然を友として樂んだ文章や詩などは、よく日本人にも愛誦されて居ます。

それから繪畫も亦この時期の間に非常に進歩したといはれて居ます。その天才の一人は東晋の顧愷之といふ人で、其の作品といふのが(實際は摸寫ですが)、ロンドンの博物館の寶物となつて居ます。それは婦人の誡をかいた巻物で、風俗畫としても大へんに面白いものであります。またその形のうつし方を見れば、寫生的

(36)東晋の顧愷之といふ畫家の筆と傳へられてゐる女史箴圖卷の一部。此の繪卷は、女史箴といふ婦人の教訓の文章に應じて畫を描いたものですが、之れによつて當時の貴族の生活の有樣などが分り、風俗畫としても面白いものです。專門家の說では之れは眞筆でなくて、唐時代頃の模寫だといふことですが、それでも筆力など相當によく見られます。淡彩もなほ殘つてゐて、千古の後に天才の筆の力と香とを知ることが出來ます。清朝皇室の寶物であつたものが、一九〇一年の北淸事變(義和團事件)のときに盜み出され、今はロンドンの大英博物館に珍藏されてゐます。この部分はそこに文章があるやうに、人は其の姿を飾ることを知るだけで、とかく心を脩めることを知らないといふことを戒めたところです。こゝに見える道具は鏡かけと鏡、前の圓い器は化粧品入れです。かういふもので、よく當時の風俗を知ることが出來ます。

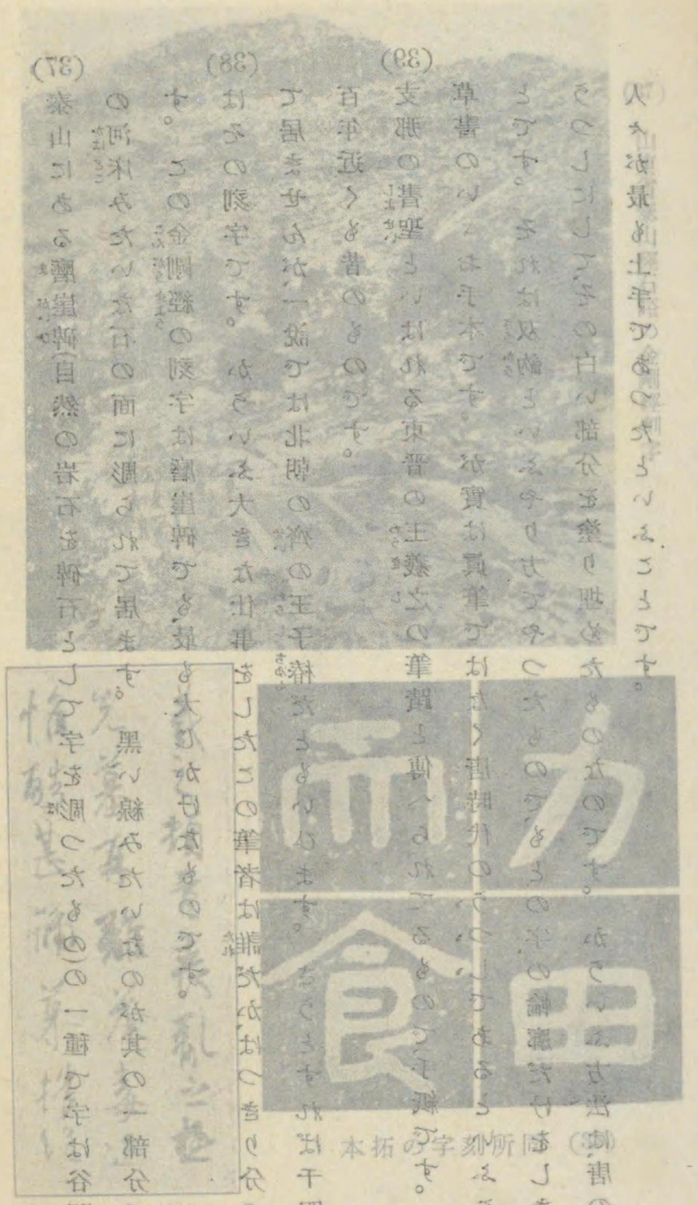


(36)東晋の顧愷之筆女史箴圖卷

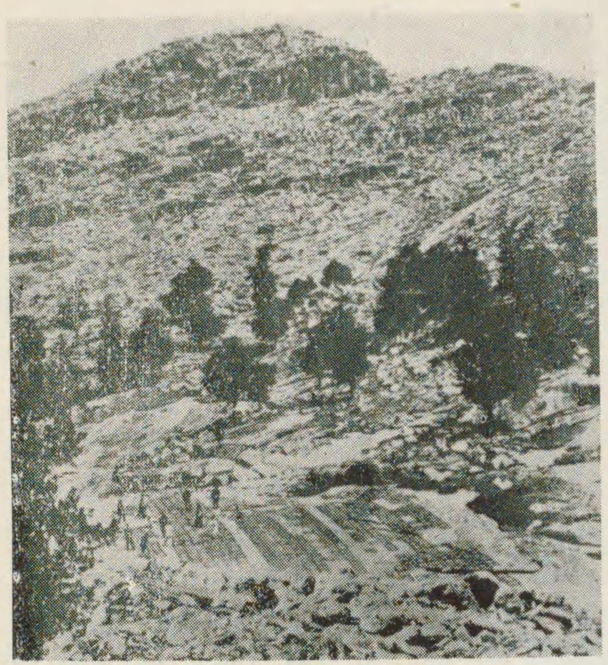
な點もうかゞはれますし、筆づかひを見ればなか〳〵達者であつたことも、おもはれます（挿畫第36圖參照。）　また當時は一方には、畫のかき方などについての、理論をいふことも盛になつて、後世の東洋の畫の標準となる筆法や、表現法のことが定められました。

此の繪畫と並んで、支那では書道といふものが、立派な美術とされますが、これも東晋のときに王羲之といふ天才が現はれて、後世に大きい影響を與へました。　あとでいた蘭亭記といふのを、やつと手に入れて非常に喜ばれ、その時の有名な書家に之れをうつさせ、ほんものは此の世に殘しておくのが惜しくて、自分の死ぬとき、陵の中に葬らせたといふことです。それほどですから、其の肉筆の書などは有りませんが、その眞筆を

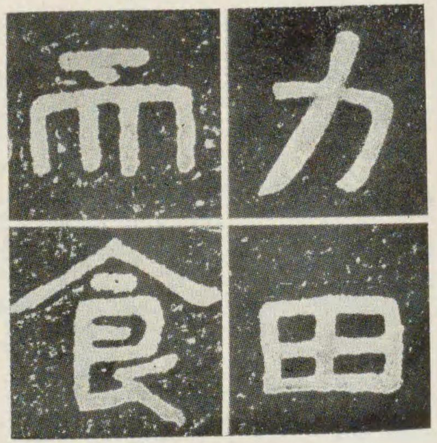
想像することの出來るものが、幸に我が國にも傳へられて居ます（挿畫第39圖參照。）この時分の書で、筆で書かれたものは、少しゝかありません が、石にほりつけたものは、方々に殘されて居ます。支那では皇帝や賢臣の功蹟、佛教の經文や、儒學の經書の句などを、石に刻して後に殘すことが、古くから行はれて居ました。さういふものの中で、文字も立派であり、大仕掛のものが、此の時代につくられました。その一つは、支那で一番神聖な山とされてゐる、山東省の泰山にあります。それは河床のやうになつてゐる谷間の石に、金剛經といふお經の言葉を、一字の大きさは五〇センチメートル四方位で、二千餘字もほりつけたものです（挿畫第37、38圖參照。）かういふ大きい仕事をしたが、それは誰がやつたのか、名前も殘して居りません。そのほか山



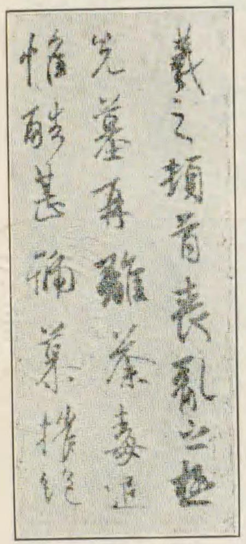
（39）東晉の王羲之の筆蹟



(37)　山東省泰山經石峪の金剛經刻字



本拓の字刻所同　(38)



王の晋東　(39)
蹟筆の之義

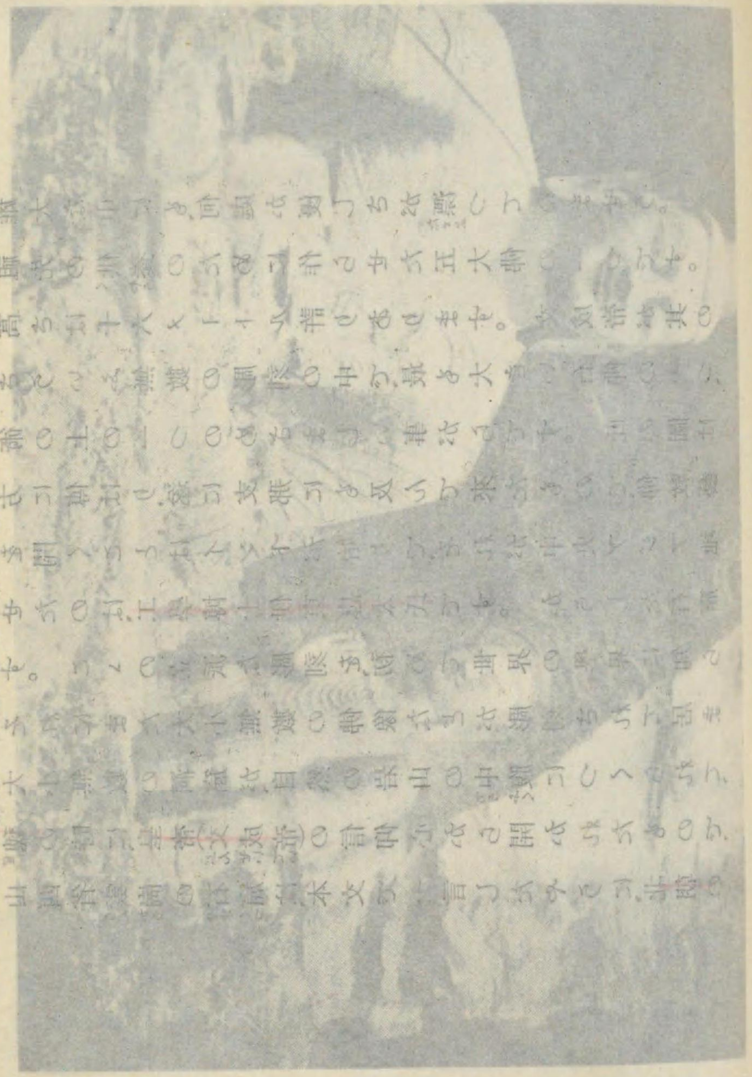
(37)　泰山にある磨崖碑(自然の岩石を碑石として字を彫つたもの)の一種で、字は谷間の河床みたいな石の面に彫られて居ます。黒い線みたいなのが其の一部分です。この金剛經の刻字は磨崖碑でも、最も大じかけなものです。

(38)　はその刻字です。かういふ大きな仕事をしたこの筆者は誰だか、はつきり分つて居ませんが、一説では北朝の齊の王子椿だともいひます。さうとすれば千四百年近くも昔のものです。

(39)　支那の書聖といはれる東晋の王羲之の筆蹟と傳へられてるもので、手紙です。草書のいゝお手本です。が實は眞筆ではなく唐時代のうつしであるといふことです。それは双鈎といふやり方でやつたもので、もとの字の輪廓だけをしきうつしにして、その白い部分を塗り埋めたものなのです。かういふ方法は、唐の人々が最も上手であつたといふことです。

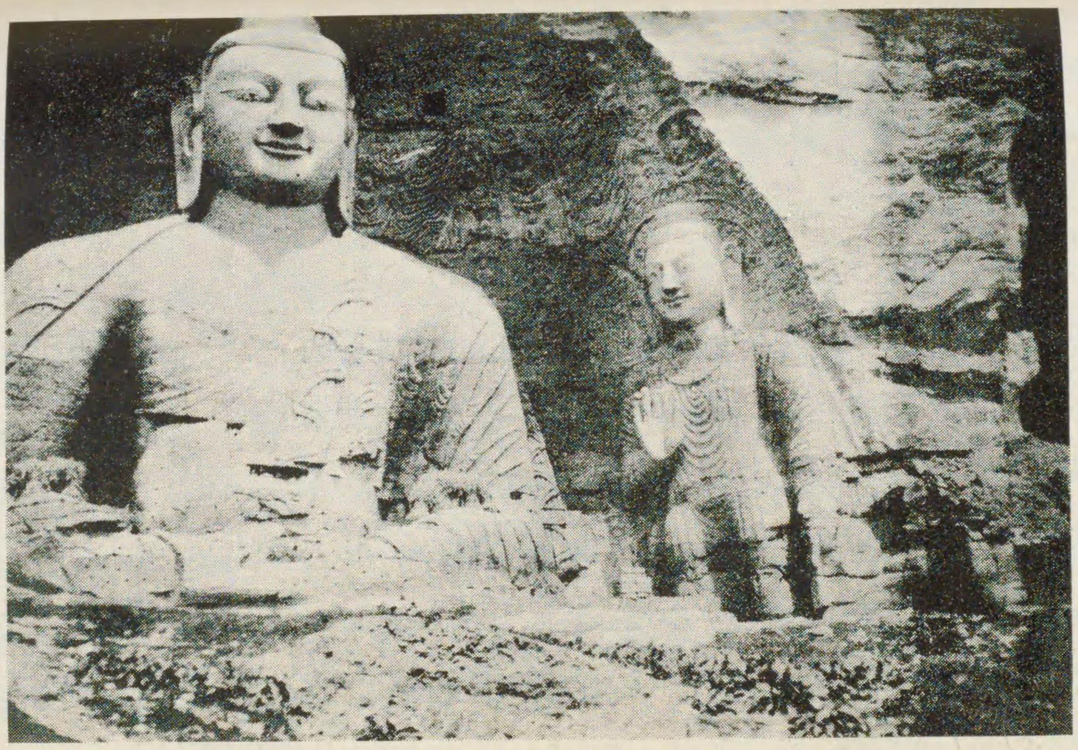
の崖になつた岩などに、彫りつけたものは、方々に見出されます。かういふ石刻の文字は、形の上には多少の違ひがあり、又うまいまづいもありますが、大體に於いて、筆力はつよく、やたらに手先の細工をしないで、ほんとうにすなほな心持ち、そのまゝを出してゐることで、書を習ふ人には、非常な參考となつて居ます。よく六朝風の書體などといひますのは、これらをひつくるめて呼ぶ名なのであります。六朝とは三國の吳と東晋と南朝の宋・齊・梁・陳の六王朝の事で、何れも今の南京を首府にして居たものを總括していふのです。然し書とか彫刻とかの上で、六朝風といふ場合には、それをはなれて、北朝の魏のものなどを、主として申します。

前にもいつたやうに、佛教が盛であつたゝめ、寺を建て塔を造り、



佛像の彫刻をすることなども、此の時は非常に發達しました。中にも今日まで殘つて居て、當時の人々の篤い信仰心と、すぐれた技術を示してくれるものは彫刻です。彫刻は後魏の時代のものが、最も澤山に見られます。山西省の雲崗、河南省の龍門、甘肅省の敦煌などいふ所にある石窟に、其の代表的のものが見られます。雲崗のは自然の岩山の中腹に、東西一キロメートル近くにわたつて、大小いろいろの窟があります。そこに大きいのは一五メートル、またはそれ以上と思はれる、石佛をくり出してあるし、壁には何百何千といふ、數へ切れない程の佛體をほりつけてあります。また釋迦の傳記なども、浮彫とされたのもあります。この澤山の佛像のつくり人は、何人あつたか分りません。またその時代もざつと

(40)
山西省雲崗の石窟は、本文で一言したやうに、北朝の魏の時に、皇帝(文成帝)の信仰心から開かれたもので、大小無數の洞窟が、自然の岩山の中腹につくられて、それにまた大小無數の佛像などが彫刻されて居ます。こゝの立派な彫刻を、初めて世界の學界に知らせたのは、工學博士伊東忠太氏です。かうした石窟を開くことはインドが始りで、それが中央アジア地方に傳はり、遂に支那にも及んで來たもので、佛教藝術の上の一つのめざましい事がらです。此の圖はさういふ無數の彫刻の中で、最も大きい石佛の一つ、高さは十六メートル許りあります。文成帝が其の祖先の供養のために作らせた五大佛の一つです。雄大な中にも、何處か優しさが漂つてゐませう。



(40) 山西省雲崗石窟の露佛(北魏の佛像)

五十年ばかりにわたる間ですから、技術にはちがひもありますが、その仕事はすべて、強い信仰心から來たのです。其の最も大きいのは五つありまして、それは後魏の皇帝が、祖先の後世を弔ふために、造らせたものと傳へられて居ます（挿畫第40圖參照。）その他の大小無數のものは、人民がそれにならつて、亡き親や兄弟や夫や妻子のために、佛陀の惠を願ふために造つたのが多いといふことです。

かうした石の窟をつくることは、もとインドに起つたのを、支那でもまねたのであります。從つてインドの美術のかたが、そこにも現れてゐることがみとめられます。かういふ後魏時代の佛像彫刻の樣式は、朝鮮に傳はり、それから日本にも入つて來ました。推古天皇時代の日本の佛像彫刻は、かういふ系統樣式が本になつ

たものであります。

書にしても彫刻にしても、此の時代の美術は、その當時の天才のすぐれた腕まへと、強い信仰のつゝしみ深かつた心もちとで、出來上つてゐます。そこには美しい優しい、或は強い氣持ちがたゞよつて居ます。かういふものはたゞ骨董いぢりといふだけの老人や、物ずきの人々のおもちやにのみまかせるのは、餘りにもつたいないものであります。

八　太陽の輝き

——隋と唐との時代——

大運河

南北朝の爭ひを隋が一つにまとめたことは、さきに申しましたが、その始めの文帝の次に、煬帝といふ天子が立ちました。この人はぜいたくなことが、大好きで、立派な宮殿を建てる、大きな庭園をつくる、さうして珍らしい草や木や庭石から鳥獣などをも、國中からとりよせる、費用おかまひなしの勝手放題をしました。離宮の數は四十いくつとか申します。さういふ離宮を遊びまはるのに、

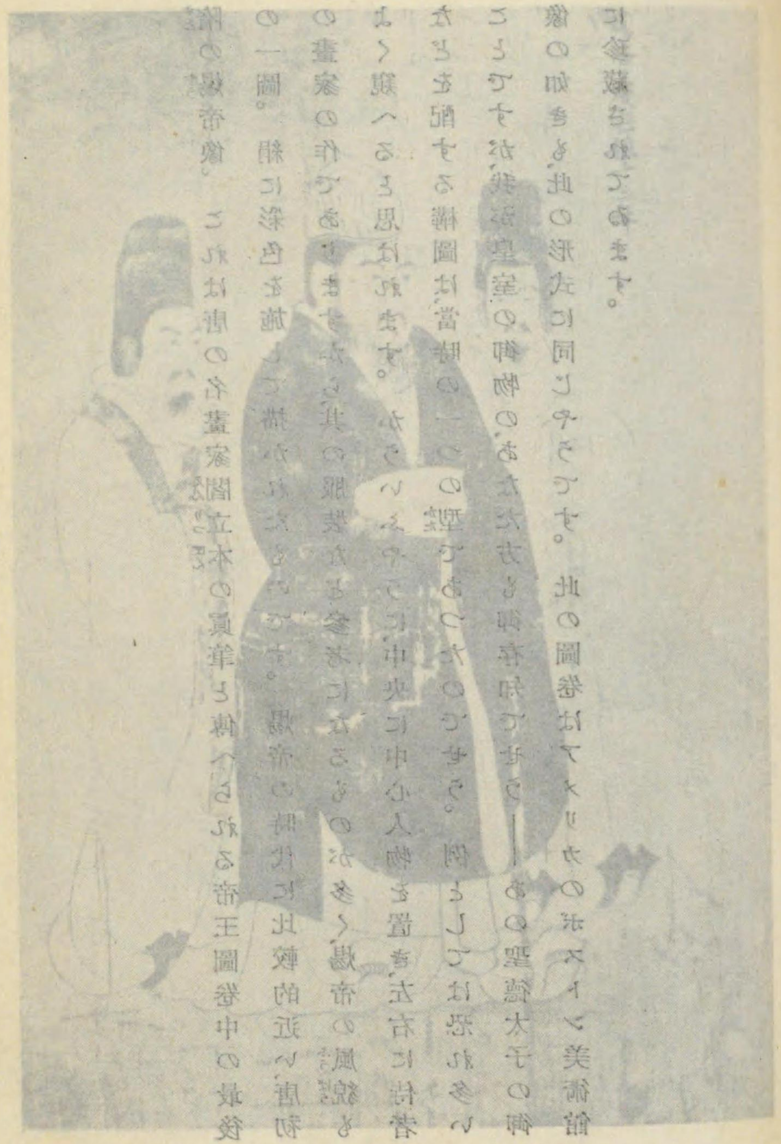
馬車で行くのも面白くないと、船で行くことを考へ、黄河から揚子江の水をつゞけるため、永濟渠、通濟渠、刊溝、江南河等の運河を開かせ、龍船といふ美しく飾つた船などを備へて、首府の長安から、南の江都（江蘇省揚州）の離宮などへ往復しました。この運河は然しさういふ遊びのためばかりであつたとも、斷言は出來かねるので、之れで南方から穀物などを、北に運ぶ上には、大へんな便利を得ることになりました。今の大運河といふ、南北支那をつなぐ大切な水路は、大體このときのものを、後に修理したのであるといふことです。

煬帝は一方には政治の上にも注意して、法律などを改めもしましたし、外國の征伐には國威を輝かすことを忘れませんでした。自分では彼の秦の始皇帝や、漢の武帝と肩をならべる氣で居たのです。北方では南北朝の終ごろから、勢力を得て來て、北支那を脅した突厥種（トルコ種）といふ北方民族を征服して、其の侵入をとゞめました。北方巡幸の際に、其の酋長が來て、皇帝の萬歳を祝したときには、漢の天子もかうはいかなかつたらうと、大得意で詩を作つて、それを誇りました。南では今のフランス領印度支那半島の國々を征伐するし、海を渡つては臺灣（その時分には流求といひました）を攻めて、其の土人を捕虜にしました。また西の方の國々とは、貿易關係で、交通を開くといふやうに、その威光を四方にはりました。さうして都では、それらの外國から使が來ると、いろ〳〵な藝當などを見せて、豊な生活の有樣を示し、町ではどの料理店にでも、勝手に飲食させて、代をとらせない。國が富んでゐるから、かうするのだと虚勢でおどろかし

たといふことです。

日没する處の天子

この煬帝のときは我が推古天皇の御代に當ります。攝政の聖徳太子は、小野妹子を、此の皇帝の處へお遣しになつて、國と國とのおつきあひをはじめられました。それは推古天皇の十五年(六〇七年)のことです。そのとき太子がお書きになつた國書が、「日出づる處の天子、書を日没する處の天子に致す、恙なきや」といふ句で、始められて居たのを見て、煬帝は何分にも前申すやうな皇帝でしたから、非常に不愉快な顔つきをして、「野蠻人は禮儀を知らないからいかん」と、ぷん〳〵されたさうです。それでも翌年には我が國へ



(41) 唐の閻立本筆隋の煬帝の像

(41) 隋の煬帝像。

(41) 隋の煬帝像。これは唐の名畫家閻立本の眞筆と傳へられる帝王圖卷中の最後の一圖。絹に彩色を施して描かれたものです。煬帝の時代に比較的近い、唐初の畫家の作でありますから、其の服裝など參考になるものが多く、煬帝の風貌もよく窺へると思はれます。かういふやうに、中央に中心人物を置き、左右に侍者などを配する構圖は、當時の一つの型であつたのでせう。例としては恐れ多いことですが、我が皇室の御物の、あなた方も御存知でせう——あの聖德太子の御像の如きも、此の形式に同じやうです。此の圖卷はアメリカのボストン美術館に珍藏されてゐます。

の答禮の使者が來ました。これが我が國と支那との公の交際の始でありました。

煬帝は更に東の朝鮮半島の高句麗の征伐を企てました。そこで少し朝鮮半島の事を申して置きませう。前に書いたやうに、前漢の武帝は、半島北部を其の領土としましたが（頁六〇參照）、後漢の始め頃に、遼東にツングス種の高句麗國が興つて、半島北部に侵略の手を伸ばし、晉の末頃には、遼東から半島北部は、高句麗の領土となりました。さういふ間に南の韓族の國々も變化して、辰韓諸國は新羅となり、馬韓諸國は百濟となり、北の高句麗に對して、いはゆる三國（我が國史では此の三國を、高麗、新羅、百濟と呼び、三韓といひます）の對立の形が現はれました。弁韓は任那となつて、最も早く我が國の

朝貢國となりました。さて三國の中では、高句麗が最も強く、他の二國は之れに壓迫されがちでした。其のため三國間の懸引きや戰爭、また支那王朝への朝貢とか、我が國への朝貢など、それはなか〳〵微妙複雜な事情がありました。かういふ歴史事實は、從つて半島民族の性質の上にも、いろ〳〵な影響を與へることゝなりました。

さて煬帝の此の高句麗征伐は、大皇帝の武威を輝かさうとする野心もありましたが、前に父の文帝が企てゝ失敗したので、其の報復といふ意味もあつて、「今度こそは！」といふ意氣込で、百萬の大軍をくり出し、帝自ら指揮の任に當つたが、大敗して逃げ歸る。直に再征の令を下して、軍人も兵糧をも徴發して、東へ遣はしました。

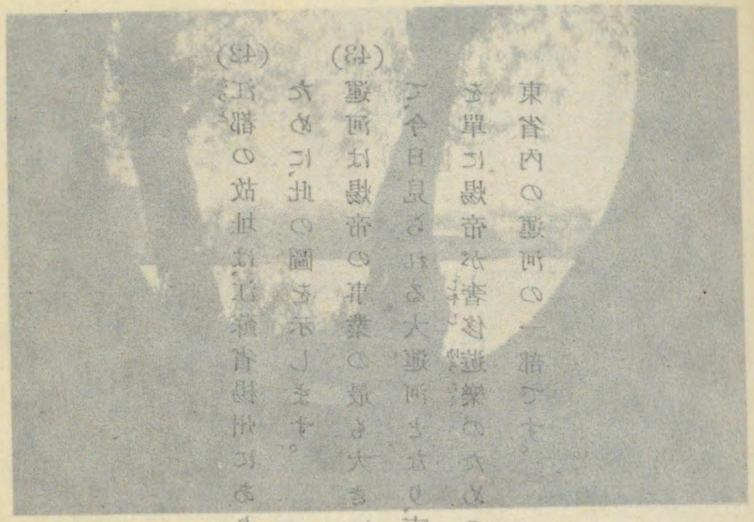
かういふ戰爭には兵士の他、その倍も人夫がこき使はれましたが、さういふ人夫は疲れに疲れて、道ばたにばた〳〵たふれて死ぬといふむごい有樣でした。

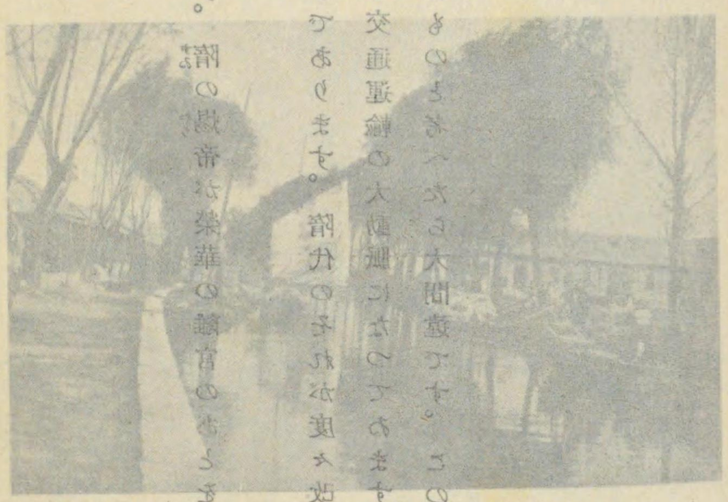
かうした亂暴も、その軍隊が勝利を得られたら、或はいくらかよかつたかも知れませんが、引つゞく敗軍は、この皇帝の威嚴を損し、帝權の強さを疑はせました。そこで今まで煬帝を強い權力者として、何をされても我慢してゐた人民は、もうそのおもしをはねのけることが出來ると、思ひましたからたまりません。各地にむほん人が出て、皇帝の地位を奪はうと爭ひました。さういふ騷もよそに、煬帝は最も氣に入つた江都の離宮に、酒盛をして居ましたが、とう〳〵臣下の手に殺されました。殺されるまで、盃を口から離

さなかつたと傳へられて居ります。

隋の滅びる頃に

江の南で楊が散れば
河北ぢや李が花ざかり





といふ流行唄がはやりました。隋は楊といふ姓であつたので、それが倒されて、北の方で李といふものが興つて來るといふなぞでした。煬帝は李を目の敵にしましたが效なく、李を姓とした群雄の一人の李淵は、六一八年、遂に隋に代つて皇帝となりました。これが唐の高祖なのです。

民は國の本

景の近附（州楊）址故の都江　(42)

河運大の代現　(43)

(42)江都の故址は、江蘇省楊州にあります。隋の煬帝が榮華の離宮のあとをしのぶために、此の圖を示します。

(43)運河は煬帝の事業の最も大きい一つであります。隋代のそれが度々改修されて、今日見られる大運河となり、南北の交通運輸の大動脈になつてゐます。運河を單に煬帝が奢侈遊樂のためのみのものと考へたら大間違です。この圖は山東省内の運河の一部です。

唐の時代は支那の歴史の四千年の間に、一番花々しい時代であり、我が日本には、とりわけいろ〳〵な關係があつた時であります。この國は第二代の太宗（たいそう）といふ天子のときに、すつかり其の土臺が出來ました。

太宗の御世はまことに平和で、支那式の形容（けいよう）では「道におちた物があつても拾つて持つて行つてしまふものもなく、夜は戸締（とじま）りをしないでも盜人などが野宿しても、危（あぶな）いことがなかつた」といつて居ります。これは太宗が常に「天子は國あつての天子、その國も民あつての國である。民こそは國の大本（おほもと）だ」と、民をよくいたはる政治を、されたゝめであるといはれてゐます。いい政治のためには、いゝ制度（せいど）が必要です。唐の初にはいろ〳〵の

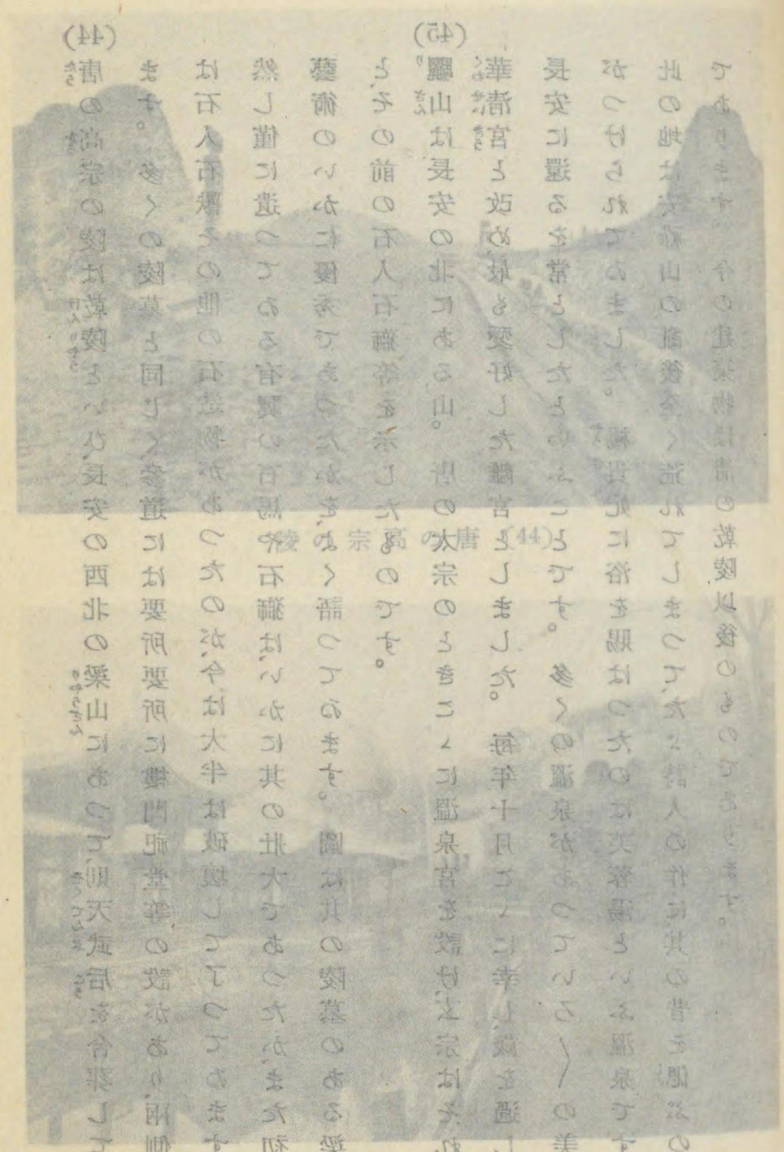
役所にも、新しいきめをつくるし、學校のことも法律のことも、それぞれよりよく整へられました。國民の生活を安らかにするためには、均田の法を行つて、田地を人民に平等に使用させることも謀りました。（皆さんのよく御存知の、我が「大化の改新」の班田收授の法の如きは、この均田法に關係があります）。かういふ善政には、房玄齡、杜如晦、魏徵などといふ名臣が、よく天子を輔佐いたしました。この名天子の立派な言行を書き記した貞觀政要（貞觀といふの は太宗の年號）といふ本は、後に我國にも傳へられて、政治家のいゝ教科書となつたといふことです。その次の高宗は、父ほどのえらい人物ではありませんでしたが、それでもよく前代の盛な國運をうけつぎ、多くの賢臣の力によつて、國内を治めると共に、外をも征伐し、領土などは更に擴大することが出來ました。

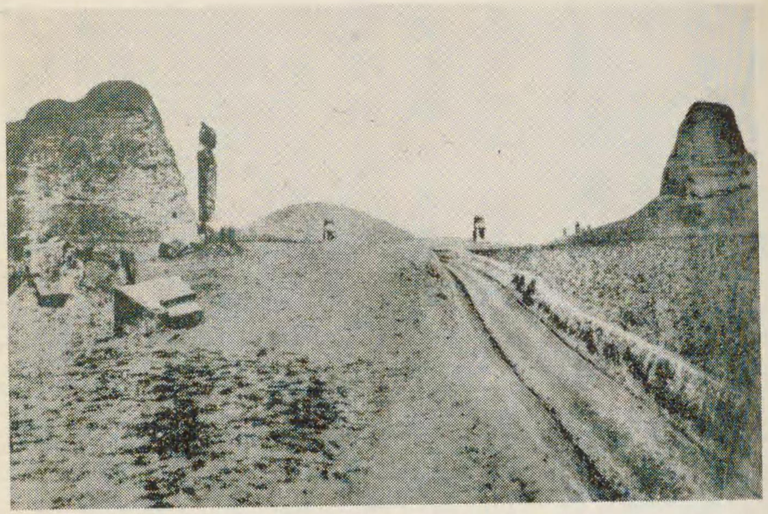
隋のところで、一寸話した突厥は、此の太宗、高宗二代の間に遠く西方に擊退されて、北は蒙古、西は中央アジアの地まで、みな唐の支配を受けることゝなりました。チベットの民族も好を修めれば、インドとも交通する、滿洲の地方からも貢をたてまつる。南方は今のフランス領印度支那半島方面からも使が來る。西は中央アジヤを越えて、ペルシヤをも、一時その保護の下に置きました。それから東では、さきに太宗は高句麗征伐の兵を出して、失敗したので、高宗は攻め易い百濟に、まづ兵を加へて之れを滅し（六六三年）、ついで高句麗を攻めて之れをも滅し、半島の大半を支配することゝなりました（六六八年）。

かういふ勢力の發展は、支那の歴史に今まで見られなかつた事であります。さうしてこの四方からの使者は、正月には必ず唐の朝廷に、よろこびを申入れる。皇帝はかうして其の玉座の下に跪く、世界のはてばてからの使節の上に、威儀いかめしき多くの臣下を從へて、その尊嚴を示したのです。さういふ國々からの、數へつくされないさゝげ物には、いかばかりその當時の人々は、よろこびもし、おどろきもしたことでせう。

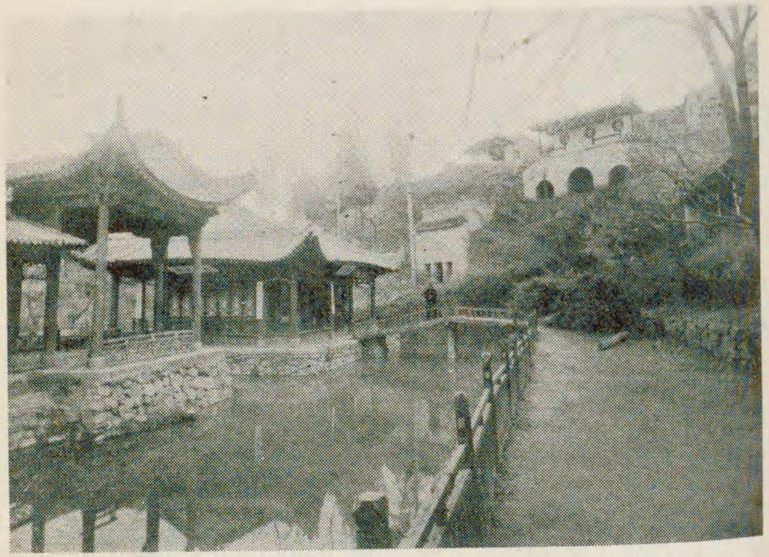
老女の卽位

月でいへば滿月にも似た、この唐の世にも、暗い雲のかゝるのを、防ぐわけには行きませんでした。といふのはこの高宗はとかく





陵の宗高の唐（44）



泉温山驪（45）

（44）唐の高宗の陵は乾陵といひ、長安の西北の梁山にあつて、則天武后を合葬してゐます。多くの陵墓と同じく、參道には要所要所に樓門祀堂等の設があり、兩側には石人石獸その他の石造物があつたのが、今は大半は破壞して了つてゐます。然し僅に遺つてゐる有翼の石馬や石獅は、いかに其の壯大であつたか、また初唐藝術のいかに優秀であつたかを、よく語つてゐます。圖は其の陵墓のある梁山と、その前の石人石獅等を示したものです。

（45）驪山は長安の北にある山。唐の太宗のときこゝに溫泉宮を設け、玄宗はそれを華淸宮と改め、最も愛好した離宮としました。毎年十月こゝに幸し、歲を過して長安に還るを常としたといふことです。多くの溫泉があつていろ〳〵の美名がつけられてゐました。楊貴妃に浴を賜はつたのは芙蓉湯といふ溫泉です。此の地は安祿山の亂後全く荒れてしまつて、たゞ詩人の作に、其の昔を偲ぶのみであります。今の建築物は淸の乾陵以後のものであります。

病氣がちで、政を親しくとることがむづかしかつたので、皇后の武氏といふ人が、夫に代つて大臣たちの意見もきけば、命令もしました。それで人民は天后と申して、天子と同じく敬つてその命をきました。この皇后は非常な美人で、始めは太宗の宮中に仕へて居りましたが、後にとう〳〵高宗の皇后になつたのです。智慧もあり學問もあり、政治家としても立派な腕まへをもつて居ました。支那は婦人がいぢめられる國のやうに、誰しも思ひがちですが、實際はなか〳〵婦人の勢力は強くもあり、又なか〳〵えらい婦人が、歴史の上にあらはれて來て、男子と腕くらべをしても、ひけをとらないのがあります。漢のときの呂氏や、殊にこの武氏のやうなのは、その中でも第一の位置を占める人です。

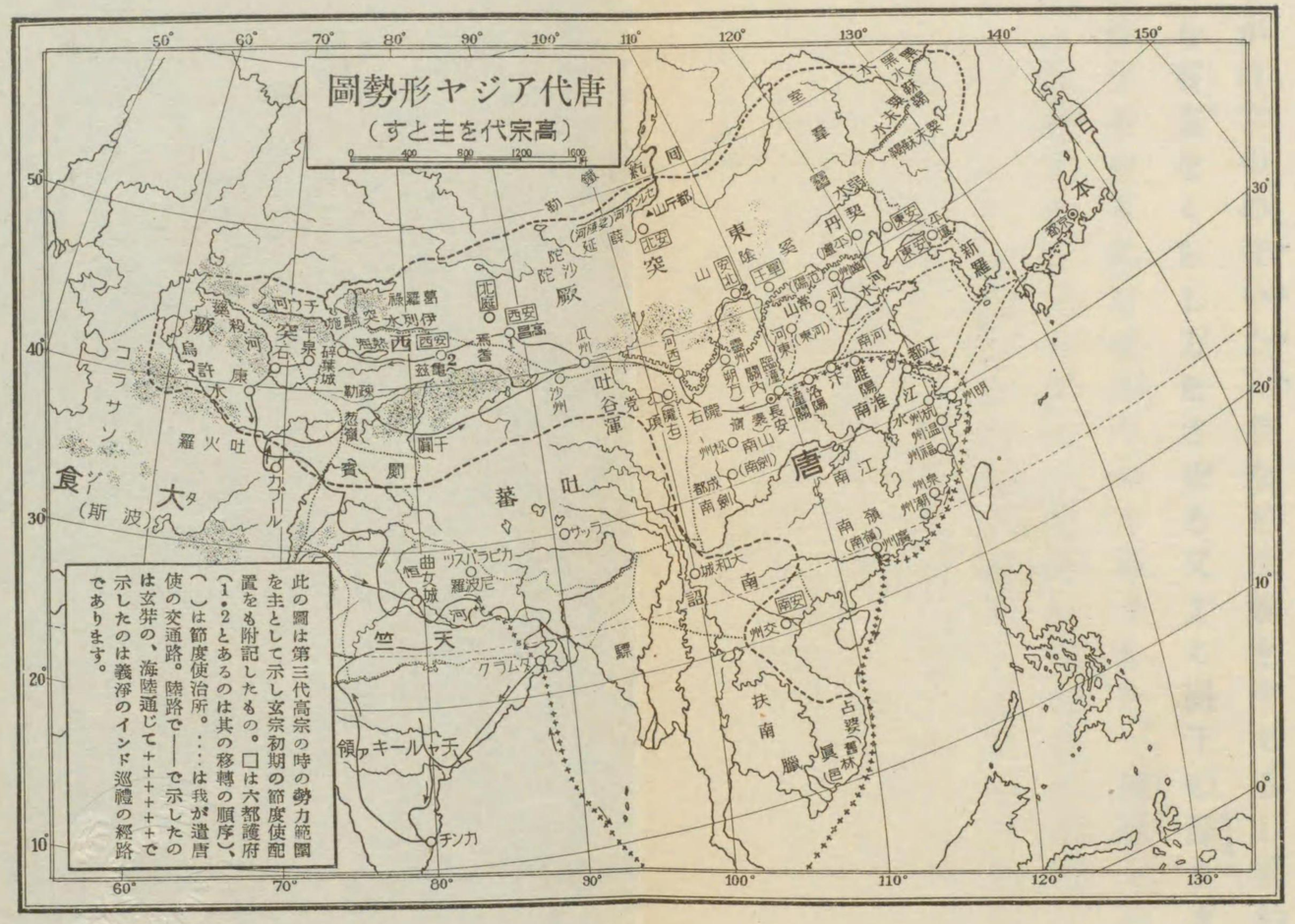
さて六八四年、高宗がなくなると、武氏は皇子の中宗、睿宗を、つゞけて皇帝に立て、すぐまたそれをやめて、自ら皇帝の位を奪ひ、國の名を周と改めました。此のとき、武氏の年は六十七でした。則天武后といふのがこの人です。こんなお婆さんが、大さな支那の支配者になつたのですから、驚くではありませんか。それもあたり前に位についたのなら、まだしもですが、いはゞ皇帝の位を奪つたのですから、これに不平な唐の皇族や、その臣下のあつたのは、當然のことであります。さういふ連中は片つぱしから除いて、自分の身の安全を謀りましたが、また一方では、たらきのある人物は、重く用ゐて政をとらせました。それでたいした騒もなく、その大國を治めること十五年。八十二のとき、老病にかゝつて弱つたので、

大臣達は相談して、つひに兵力を以て武后に迫り、中宗を再び位につけることゝしました。そこで唐の皇室は回復したのです。

ところが此の中宗の皇后に、韋氏といふ人がありました。中宗が位をやめられて、諸處を歩いてゐた間は、よく夫を慰め忠實に世話をした人でしたから、中宗が帝位につくと、皇后となりました。この韋氏は武氏ほどの才もはたらきもないくせに、その眞似をして權力をふるはうと考へ、つひにその夫であり、天子である中宗を弑してしまひました。之れを見て、前にやめられた睿宗の子が、兵を率ゐて之れを誅し、父を再び位につけ、やがて其のゆづりを受けて天子となりました。これが有名な玄宗です。

前に申したやうに、高宗の時代の領土は、めざましい發展を遂げ

ましたが、其の晩年頃からかういふ騒動の間にかけて、國境の防禦がおろそかになつたゝめ、外民族がまた勢をもりかへして、唐の國境線は後退しました。別圖で都護府をつなぐ線と、次にいふ玄宗の初めの、十節度使の位置とを比べて見ますと、すぐにお分りになるでせう。殊に朝鮮半島では、たゞ一つ殘つた新羅の國は、唐に朝貢しながら、一面には半島に於ける唐の領土を侵して、遂に半島の大部分を其の領土に入れました。之れを歴史上、新羅の半島統一と申してゐます。新羅はこれから其の文化の上にも、一大發達を見ることゝなります。其の國都慶州が、千古の後に、其の藝術的な遺物遺品を誇ることの出來るのも、かうした國力の發展と、唐のすぐれた文化の輸入摸倣の結果なのであります。



境線は後退しました。別圖で都護府をつなぐ線と、次にいふ玄宗の初めの、十節度使の位置とを比べて見ますと、すぐにお分りになるでせう。殊に朝鮮半島では、たゞ一つ殘つた新羅の國は、唐に朝貢しながら、一面には半島に於ける唐の領土を侵して、遂に半島の大部分を其の領土に入れました。之れを歴史上、新羅の半島統一と申してゐます。新羅はこれから其の文化の上にも、一大發達を見ることゝなります。其の國都慶州が、千古の後に、其の藝術的な遺物遺品を誇ることの出來るのも、かうした國力の發展と、唐のすぐれた文化の輸入摸倣の結果なのであります。

美人と悪将軍

かういふ騒ぎのあとを受けたので、玄宗は民を安らかに治めることに心がけ、宮中のぜいたく品などは焼きすてるし、皇后以下の婦人達にも質素なくらし方をさせる、又よく臣下の諫をきゝ入れて、いゝ政をするやうにとばかりつとめました。韓休といふ人は餘りひどい諫め方をするので、そのために玄宗は心配して、顔色もすぐれなくなつたのを見て、他の家來が「あの男はおそばからお遠ざけになつた方がよろしいでせう」と申しましたら、「いや〳〵朕は痩せたかも知れないが民は肥えた。あれの諫めがあればこそ政も行きとゞくのだ」といはれたといふことです。

こんな工合に政に励み、前の騒動の間の、國の衰へを回復するにつとめました。なほ高宗の末から國境の防ぎも、おろそかになり外民族の侵入も始りましたから、邊境の大切な場所十箇所には、節度使といふ將軍を置いて、國境の守りを嚴重にしました。その一方に此の時代は、文學にも美術の上にも、多くの天才が出まして、支那の文明の光ともなりました。

玄宗は長い間のその政に、次第に心のゆるみが出て來ました。もと〳〵はで好きの人でしたから、いろ〳〵と奢りの氣持もはびこつて來ました。殊に楊貴妃といふ美人を大さう愛されてから、歌に舞踊に、宴會は晝から夜に、夜から晝につゞくといふ有樣。この楊貴妃は南方に出來る荔枝（龍眼肉に似て居るおいしい果物です）が大へんに好きだつたので、それは〳〵大騒で、幾千里の遠くから、長安の宮中にとゞけさせる。今とちがつて交通不便のとき、また廣い支那のことですから、南のはてから北の奥へと、それを運ぶのは、筆には示されない困難があります。それが人民の迷惑になつたこともいふまでもありません。

かういふときに玄宗の信任を得たものに、安祿山といふ將軍が居ます。これは滿洲の生れで、大そう武勇の譽のあつたものですが、甘く楊貴妃にとり入り、とう〳〵三つの節度使を己れ一人に兼ねるやうになりました。この將軍は大兵肥滿で便々たる腹をして居たので、あるとき皇帝が戲れに「お前のその腹の中には、何があるんだ」ときかれたところ、「たゞ〳〵陛下に報い奉る赤心のみでご

さいます」と答へました。がそれは赤い清い心どころか、眞黒々の悪心だつたのです。そこで間もなく唐の天下を奪ふ準備をして、然も圖圖しくも、「臣の故郷は名馬を産しますから、馬二千匹と、その轡を執るもの各〻二人をつけて都にさしあげませう」と、謀叛の前ぶれをしました。皇帝が之れを悟つたときは、もはや北からの軍鼓の轟き馬蹄の響は、近く都の人々を驚したのでした。それは七五五年、日本では孝謙天皇の御代のことです。

洛陽は忽ち賊の手に奪はれ、長安も危くなりました。玄宗は「二十四郡一人の義士もなきか」と嘆かれて、位を粛宗にゆづられ、共に蜀（今の四川省）へおにげになる。道で家來たちは、此の騒亂の本は貴妃にあるから、之れを殺さなければ、お供をすることは出來ませんといひましたので、帝はつらい情を忍んで貴妃を殺させました。その悲しみの場に、南方から貴妃の大好きだつた荔枝が屆きましたが、その人はもう息がたゝれてしまつたのでした。かういふ悲にたへて、玄宗は軍隊の心をなだめ、回復を謀りましたが、賊軍の勢は強く、官軍はどこもかしこも敗北ばかり。たゞ僅に顔眞卿（書道の名人でもありました）その他の人々が、奮闘して回復につくし、忠義の名をあげました。そのうち賊軍の方では、仲間喧嘩も起り、官軍は回紇（コトル種）の援軍を得て、勢をもり返し、八年の後にやつと、この亂を平げました。これは粛宗の次の代宗のときでした。

これで一まづ大亂は治まりましたやうなものゝ、田地は荒らされ、人民はちり〳〵ばら〳〵になり、さしも榮えた唐の世も、これか

らは衰へに衰へることゝなりました。

太陽の輝き

唐の時代は前に申したやうに、漢民族の黄金時代で、すぐれた藝術家も現はれゝば、えらい宗教家も、賢い政治家も、智勇ある將軍も出ました。唐はその當時の世界で、最も大きい領土と、最も高い文明とをもつたもので、ほんとうに太陽のやうに、全世界に輝いたものといへます。

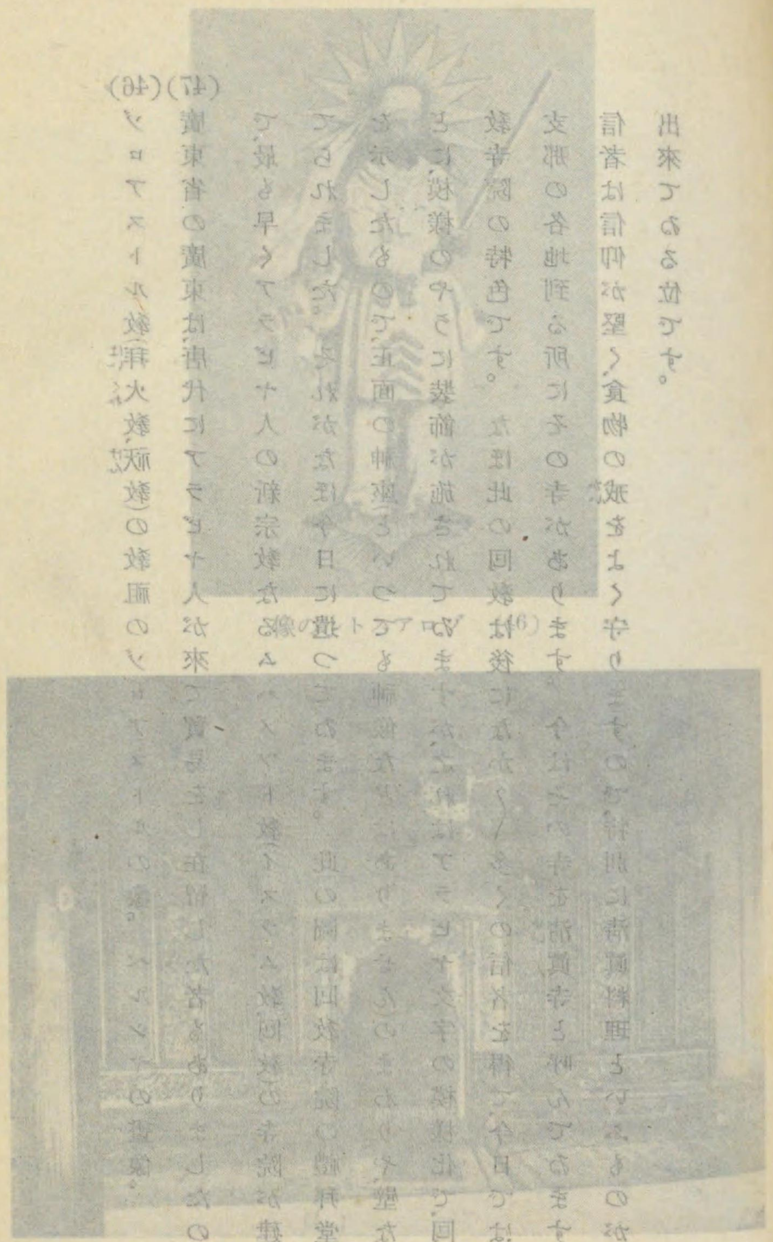
宗教では佛教が最も盛で、インドからは殊に徳の高い名僧達が來ました。後に我が空海や最澄が留學して、日本に傳へた眞言宗や天台宗は、唐に榮えた宗派なのでした。インドへ巡禮した唐の名僧には、太宗の時の玄奘、高宗の時に義淨があります。苦しい長い間の旅をして、多くの經文をもち歸り、之れを漢文に譯しました。今、日本で讀まれるお經には、この玄奘の譯したものが、少くないといふことです。其の旅行記（玄奘のは大唐西域記、義淨のは南海寄歸傳といひます）は、その頃の西方の歴史や地理を、研究する學者には、今も大切な參考になつて居ます。

道教も佛教に劣らず、盛で、その本尊の老子は、唐と同じ李姓であつて、唐の先祖だといふことから、一時は國教のやうになつたこともありますし、「老子道徳經」を以て、役人を採用する試驗の科目に加へたこともありました。

又キリスト教の一派（支那では景教といひました）も、ムハメッド教（支那では回教）も、古いペルシヤの宗教のゾロアストル教（支那で

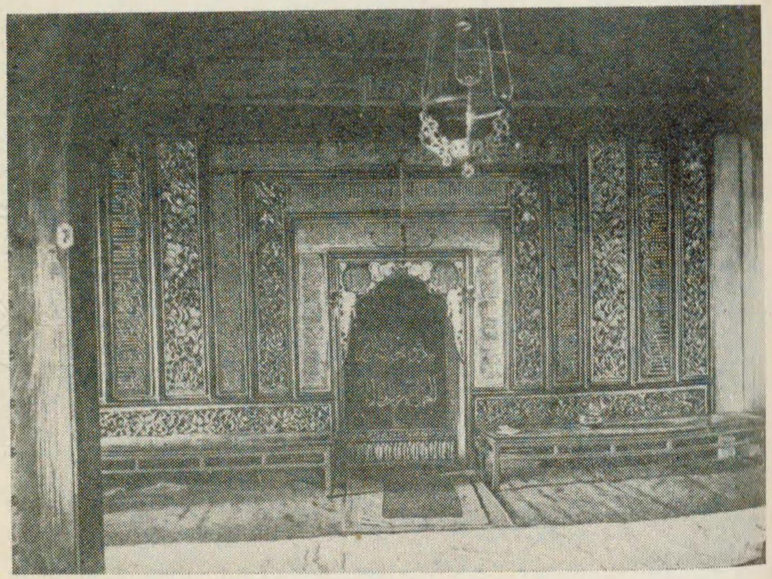
は祆教)といふのもつたへられました。此のゾロアストル教は火を拜むので、拜火教ともいはれます。此の教では光明(善)の神と暗黒(惡)の神とがあつて、其の爭で此の世の中のいろ〳〵な事が起る。人は光明の神を援けて、暗黒の神を滅してしまふものだと說きます。光明の神をアフラ・マツダといひますが、皆さんの家の電燈の球にマツダ・ラムプといふのがありませう。それはアメリカであの電球を發明したときに、この神樣の名をとつてつけたのです。

佛教の盛になつたゝめに、美術の上に重要な發達がありました。寺や塔が各地に建てられ、立派な佛像佛畫はこれを飾りました。西域からすぐれた畫家も來て、新しい畫風を傳へましたが、それはインドの壁畫の影響のつよかつたことが察せられます(皆さんが



(47) 廣東の回教寺院の内部

像のルトスアロゾ　(46)



部内の院寺教回の東廣　(47)

(46)ゾロアストル教(拜火教、祆教)の教祖のゾロアストルの像。ペルシヤの畫像。

(47)廣東省の廣東は、唐代にアラビヤ人が來て貿易をし、在留した者もありましたので、最も早くアラビヤ人の新宗教なるムハメツド教(イスラム教、回教)の寺院が建てられました。それがなほ今日に遺つてゐます。此の圖は回教寺院の禮拜堂を示したもので、正面の神座(といつても神像などはありません)のまわりや、壁などに、模様のやうに裝飾が施されてゐますが、之れはアラビヤ文字の模様化で、回教寺院の特色です。なほ此の回教は後になか〳〵多くの信者を得て、今日では支那の各地到る所にその寺があります。今はその寺を清眞寺と呼んでゐます。信者は信仰が堅く、食物の戒をよく守りますので、特別に清眞料理といふものが出來てゐる位です。

史の上の美しい記念なものであります。

いかに其の畢後を帥なる記念されてゐる如く、かゝる驚嘆を交付なことは、空海が宇と漢字で不空金剛の名を書しなもの。

としてゝ重きをなすものにして、此の圖の上部の書は、空海の得意の飛白體で、焚ひ

を作宗なる後宗にあらずして、唐家でありまきなることは一面には唐代の自像畫

の名僧で作宗の大曆年間に從ひました。李眞の傳は明かでは、なくなるが、おほよ

教王護國寺敬藏の國寶。不空金剛は文宗のときに、唐に來て眞言を說くなるとて

其の帥惠果阿闍梨が贈ひた眞言七祖の畫像の一つと傳へられるもの。京都の

(48) 唐の李眞筆 不空金剛の像

(48) 唐の李眞筆不空金剛の像。これはわが國の名僧空海弘法大師が唐から歸朝のとき、其の師惠果阿闍梨が贈つた眞言七祖の畫像の一つと傳へられるもの。京都の教王護國寺珍藏の國寶。不空金剛は玄宗のときに、唐に來て、眞言を說いたインドの名僧で、代宗の大曆年間に歿しました。李眞の傳は明かではないが、おほよそ代宗から德宗にかけての畫家でありますから、これは一面には唐代の肖像畫としても、重きをなすものです。此の圖の上部の書は、空海の得意の飛白體で、梵字と漢字で、不空金剛の名を書したもの。かういふ贈物を受けたことは、空海がいかに其の學德を、師から認められてゐたかといふ證明にもなり、日唐交通の歷史の上の美しい記念でもあります。

御存知の我が法隆寺の壁畫は、世界の寶ともいふべき貴いものですが、あれは恐らく此の唐の畫風に感化をうけた天才が、筆をふるつたものなのでせう)。人物風俗畫には閻立本や張萱、佛畫は吳道子や李眞、山水畫は李思訓や王維が、天才の名を傳へて居ります。

風景畫は東洋ことに支那で最も早く、また最もよく發達したもので、西洋などはずつとおくれて居ます。それは漢民族には天然を愛する心もちが古くからあり、また深かつたゝめでせう。殊に墨の濃い淡いの度合によつて、自然界の氣分を巧にあらはすことなどは、最もすぐれた點でありますが、さういふことは、この唐の時から始まつたともいへるのであります。さうして後には今いつた李思訓の畫風を北宗畫といひ、王維のを南宗畫といひ、風景畫の

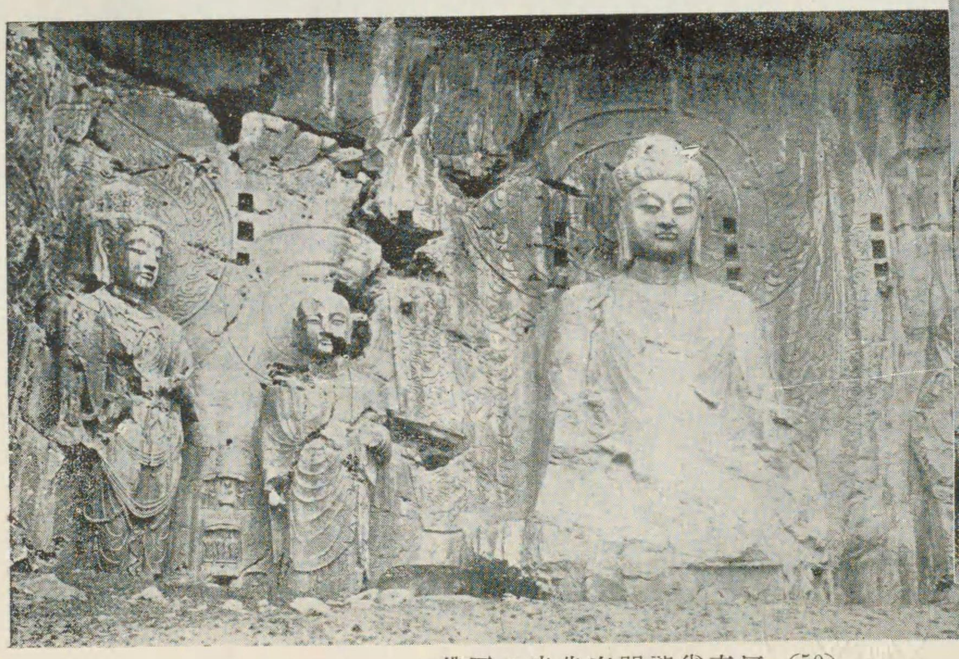
二大系統とします。李思訓の畫は、強い線で精密に、山でも木でもの輪廓をつくり、之れに極彩色をしたものだといふことです。王維のはそれとは違つて、墨のぼかしを主としたものといふことであります。彫刻では佛像の如きは、今までよりも、更に美しく更に愛にみちた、ほんとうによく佛教の理想を、現はすものも作られました。それは龍門とか天龍山とか敦煌とかの石窟にも殘されて居ます。

書道には前にいつた忠臣の顔眞卿も有名ですが、初には歐陽詢や柳公權などの上手も居ました。かういふ人々の字は、我が國でも今でもよく習字の手本にされます。是等の書家は千二三百年も昔の人々ですが、決して緣もゆかりもないものではありません。

(49) 山西省天龍山の石窟は、北朝の齊の時に初めて作られ、唐の初めまで、其の製作がつゞけられました。石窟も小さく、數も多くはありませんが、彫刻にいゝ作品が遺されてゐて、次にいふ河南省の龍門にも見ることの出來ない程の、優美なものもありました。この圖の菩薩の如きはその一つです。此の石窟は今は亡き關野工學博士の探檢によつて、世界に知られたのです。

(50) 河南省龍門は洛陽の近くにあります。此處の石窟は北朝の魏の時代に開かれ、唐の時代までだん〳〵に、其の製作が續けられ、大小無數の作品が遺されてゐます。さういふ石窟や佛像には、多くはそれ〴〵それを造つたいはれ父母妻子等の後世の功德を願つたもの)を刻みつけたいはゆる銘といふものがあります。この銘は書道の方から、大變に貴いものとされてゐます。龍門はその點で他の石窟よりも一層有名でありますが、然しやはり佛像に支那の美術史上の傑作が見出されます。此の盧舍那佛像は、さういふ中でも最も巨大なもので、二十三メートル餘もあり、唐の高宗の時の作です。其の優しい中にも氣品の高い表情には、何人も自然と頭が下るでせう。之れは唐代彫刻の大傑作といはれてゐます。

(49) 山西省天龍山石窟の唐代彫刻



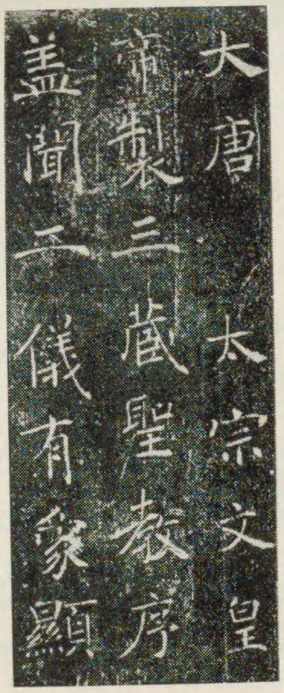
(50) 河南省龍門奉先寺の石佛

(51)
(52)
(53) 此の三圖は唐代の書道の傾向を示すために掲げたもの。

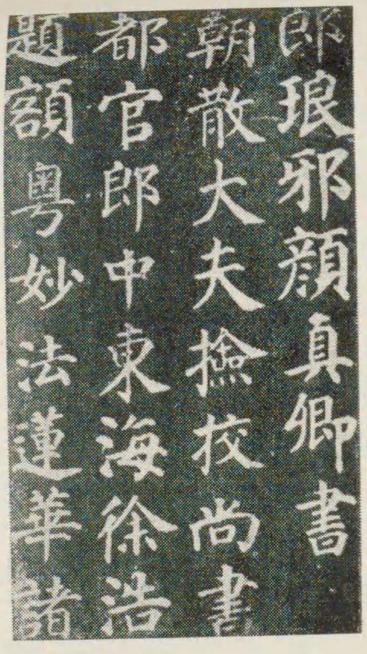
唐の書は前代に比べると、ずつと整つて來ました。歐陽詢は高祖太宗に仕へた名士で、初め王羲之の書をならつたが、筆力はそれよりも勁いといふことで知られてゐます。褚遂良は太宗・高宗のときの大臣で、楷書・隷書の名手です。また顔眞卿は玄宗のとき安祿山の亂の鎭定につとめた忠臣。其の楷書・草書は世人これを寶として重んじたといふことです。

(51) 唐の歐陽詢筆虞恭公碑拓本の一部

(52) 唐の褚遂良筆雁塔聖教序拓本の一部



(53) 唐の顔眞卿筆多寶塔碑拓本の一部



文學では詩人には李白、杜甫が第一で、王維や白居易、樂天も詩の才がすぐれ、韓退之はその文章によつて、鰐の害を去つたとまでいはれる、文章の大家でした。

織物でもその他の工藝でも、非常な進歩がありました。

さて我が日本は此の唐と永く交際をして、遣唐使、留學生をやりましたが、さういふ人々の中には、吉備眞備、阿倍仲麻呂のやうな學識文才にすぐれ、唐を驚かした人も少くありませんでした。眞備は在留二十餘年、經、史、制度などの研究をし、歸國の後には政治の上に大功を立てました。また詩文の才を謳はれた仲麻呂は、玄宗に信任あつく、李白、杜甫、王維などとも交りがあつた人。歸朝の途で難船して再び唐に戻り、高官に任用されて、つひに彼地で終りまし

た。古今集にをさめられてる「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」といふ歌は、故國を偲ぶ情を、月に寄せたものと傳へられて居ます。それから最澄（傳教大師）や空海（弘法大師）の如き高僧も、留學の僧で、しかも其の學徳は、唐の名僧知識からも尊敬された程の人でした。

かうした交通や、えらい學者や、名僧の留學によつて、唐に榮えた學問でも美術でも音樂でも文學でも宗教でも工藝でも、さういふものゝ影響が、多く我が國に及び、奈良時代や、平安時代の初めの日本の文明は、かなり其のおかげを受けました。それで宮中の年中行事や、婦人のお化粧などにも、その感化は現はれ、中には後世まで殘されたものもありました。

元日のお屠蘇や、五月五日（端午）に菖蒲を軒にさすこと、年の暮の追儺など、みな唐の影響の日本化したものです。

外國の文明を巧に取入れることが出來、かつそれをよく消化して、我が國の實際に合ふやうに、作りかへることは、我が國民の一つの特質です。

兵士の我が儘

兵士の我が儘

安祿山の亂の間には、地方の平定のため、國内にも節度使を設けたり、また賊を手なづけるためには、賊將でも降參さへすれば、此の節度使を授けてやることもありました。それで數も增し、その性質もわるくなつて來たところ、更にわるいことには、さういふ連中がお互に聯合して、政府に抵抗するやうになりました。弱つて來た唐には、之れを抑へつけることがむづかしかつたのです。

唐は初め全國皆兵主義で、一般平民は農業をすると共に、事ある時には兵に徵されて、戰線に立つことになつてゐたので、農業の暇

に調練を受け、また代る〳〵都の守備にもまゐりました。然し、これはなか〳〵規則通りには行かず、玄宗の時には志願兵を募ることゝしました。支那人はもと〳〵兵士がきらひで、「好人不當兵」「鐵不打釘」といふ諺もある位、いゝ人間は兵隊にはならないものと、相場がきまつてゐました。さういふ國民の考へですから、志願して兵士になる者に、ろくなものはなく、盜賊と同様なのも少くありません。さういふ兵士を、いま申したやうな將軍が、募集したり指揮するのですから、其の害惡の及ぶ所は、知るべしであります。それで唐の末には、かゝる惡將軍惡兵士のために、大騷動が起つてまゐりました。

また唐では、宦官が政治の上に我が儘をしはじめて、ある時には近衞兵の司令官となつたこともあり、或る時は大學の總長ともいふべき地位を占める。それから後には自分達の好きな皇族を天子に立て、氣にくはない者は殺したり、やめたりするやうな亂暴を始め、大臣などは顧で使ふといふ有樣でした。もちろん其の間には、兵士の亂暴を抑へつけた天子もあり、宦官を手きびしくやつつけようとした名君もありましたが、倒れかけた大きい御殿は、一本や二本のつつかひ棒では、どうにもなりは致しません。

その上に惡いことには、外民族の勢力が、だん〳〵と唐の領土を犯して來まして、東にも西にも北にも南にも、その國境はちゞまつてまゐります。唐の軍隊には、だん〳〵外民族の將校をも見るやうになりました。（唐では外民族を雇つて、兵隊にすることが度々ありました。）

かうして內外の事情がわるくなると、いつもの例のやうに、天下をねらふ大盜賊も出て來ました。黄巢といふものゝ亂もその一つで、山東に起つて各地を荒らし、遂には長安をも陷れました。この亂はその部下の一將の朱溫といふものが、黄巢を殺して降參したので、やつと鎭めることが出來ました。そこで朱溫はよく忠をつくしたといふので、唐の天子から全忠といふ名をいたゞきました。がその忠義はほんの表面だけで、宦官を除いて、その名聲があがり權力を得ますと、とう〳〵唐の皇帝を脅かして、その位を奪つてしまひました。これで唐は亡びました。それは九〇七年のことと。我が國では醍醐天皇の御代(名高い菅原道眞が死んでから五年目に當ります)。朱全忠の建てた國を後梁といひます。

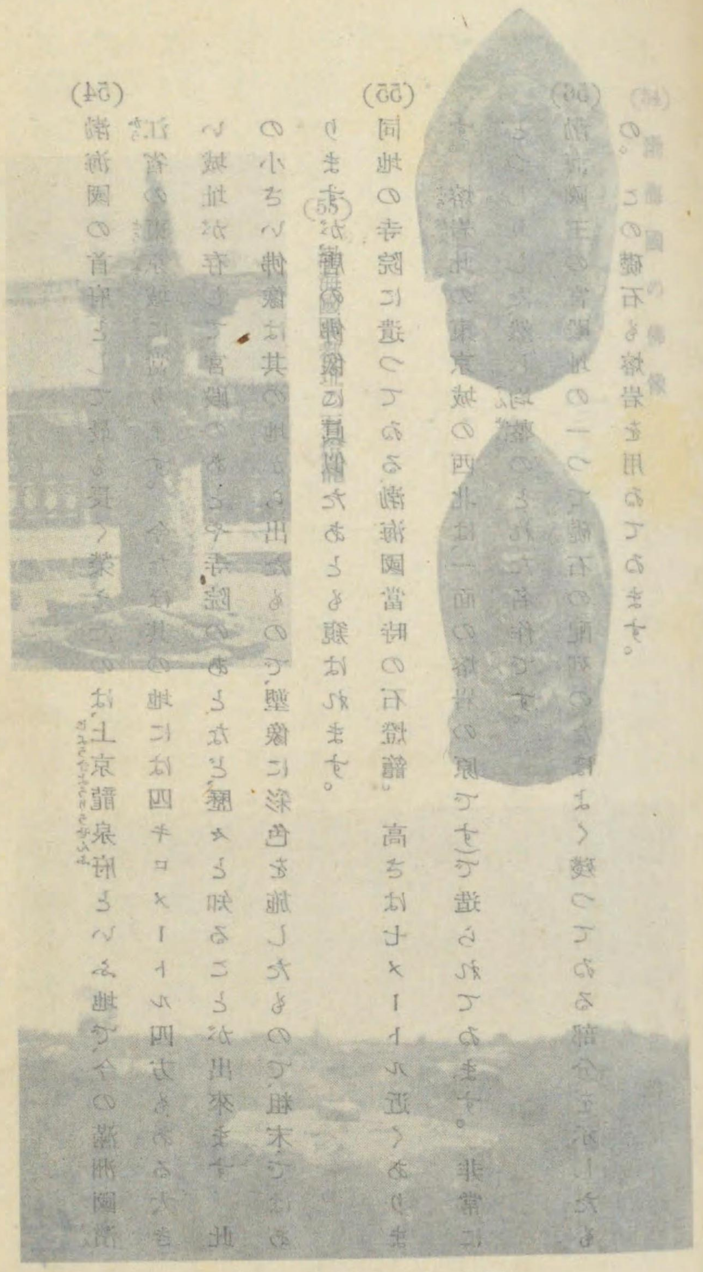
海東の盛國

唐の文化が太陽の輝きのやうに、四方の國に影響を與へた中には、滿洲の地に興つた渤海國も、其の一に數へられませう。此の國は支那の歷史に靺鞨といふ名で、記される滿洲民族(ツングス種)の國で、高王大祚榮を第一代として、十五代二百餘年間もつゞき、海東の盛國なりと傳へられてゐます。初め大祚榮は、唐に滅された高句麗に臣事してゐた者でしたが、唐の則天武后の時に、唐の勢力に叛いて自立し、震國(東方の國の意)王を稱しました。後に唐の玄宗から渤海郡王といふ榮爵を授けられたので、之れを國號としました。第二代の武王は、唐及び朝鮮半島の新羅に對する關係から、はるばる日

本海を越えて、我が國に使節を送り、高句麗國の後繼者として好を修め、同盟を願つてまゐりました。我が聖武天皇は之れをお許しになり、其の使者を厚くもてなされました。

さて渤海は第三代の文王から、第十代の宣王の間に、領土も廣まり、制度も整つて、「海東の盛國」たる美名にふさはしい國となり、なほ一二代の後まで榮え、それから次第に衰へて來たやうです。その細い事は明かでありませんが、第十五代の大諲譔王のときに、今の熱河省の北に興つた契丹族（蒙古種とツングス種との雜種）の酋長の耶律阿保機（遼の太祖）に攻め滅されました。それは唐も滅び、五代の後唐の初めで、西紀九二六年。我が國では醍醐天皇の延長四年に當ります。

渤海國の領土は、今の滿洲國の濱江、吉林二省が中心で、東はロシ



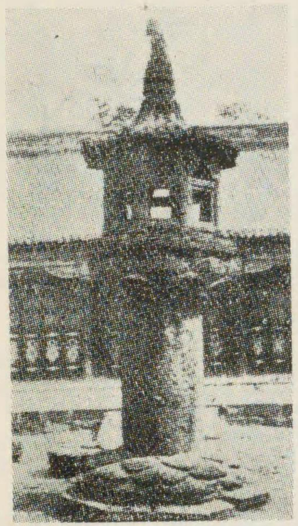
(56)　渤海國國都址の宮殿址

(54)渤海國の首府として最も長く榮えたのは、上京龍泉府といふ地で、今の滿洲國濱江省の東京城に當ります。今なほ其の地には四キロメートル四方もある大きい城址が存して、宮殿のあとや寺院のあとなど、歴々と知ることが出來ます。此の小さい佛像は其の地から出たもので、塑像に彩色を施したもので、粗末ではありますが、唐の佛像に眞似たあとも窺はれます。

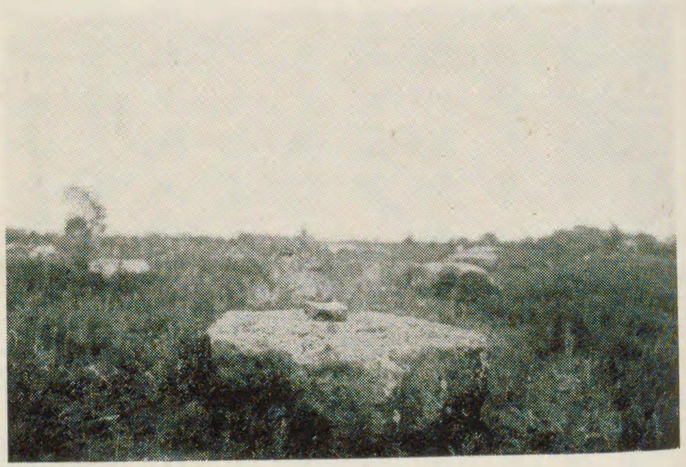
(55)同地の寺院に遺つてゐる渤海國當時の石燈籠。高さは七メートル近くあります。

(56)渤海國王の宮殿址の一つで、礎石の配列のなほよく殘つてゐる部分を示したもの。この礎石も熔岩を用ゐてゐます。熔岩(此の東京城の西北は、一面の熔岩の原ですで造られてゐます。非常にどつしりした、然し均整のとれた名作です。

(54)渤海國の佛像



(55)渤海國國都址の石燈籠



(56)渤海國國都址の宮殿址

ヤ領沿海州、朝鮮北部を含み、南は間島省や奉天、安東二省の一部、平安北道の一部に及んでゐました。國都は二三度かはりましたが、最も長く其の地位を占めてゐたのは、上京龍泉府と呼ばれ、牡丹江省寧安縣の東京城に當る所です。そこにはなほ當時の都の城壁、宮殿、寺院などの跡も殘つてゐて、千年の昔を語り、土中から掘り出されたものによつて、其の文化を知ることも出來ます。

我が國との交通は、始めには軍事的な意味もあつたやうですが、後には貿易を主とすることゝなりました。さうして二百年餘、その國の亡びる時までつゞき、三十四回もの來使があり、我が國からも使者もお遣はしになつたり、或は遣唐使が路をこの渤海にかりて歸朝するものもあつたりして、その交りは極めて親密でありま

した。この國は貿易を主眼とし、表面は貢物を上るといふ名で、大抵は百餘人の一行を、我が國に送つて來ましたが、その使はもとよりたゞの商人ではありません。大使以下の人々は、多くは漢詩漢文にすぐれてゐたその朝廷の役人でした。それで我が國でも、其の接待にいろ〳〵と苦心し、其の時々に、詩文に名ある朝臣を以て之れを迎へさせ、詩文の會などに、隣國の好みを交換しました。菅原道眞などもかうした接待の一人となつたこともありました。此の國の使者の作つた詩で、我が國の詩集にのこされてゐるものもあります。またかういふ國際的な集會といふものは、とかく儀式ばつたことが多いものですが、渤海とのそれは、さうしたことはなくて、いかにも樂しい打ちとけた氣分のものであつたやうです。

主客ともに醉つて興に乘じて詩を作るなどといふことも記されてゐます。現に菅原道眞の詩にも、「醉中脫衣、贈裴大使、敍一絕寄以謝之」といふ題のあるのでも、知ることが出來ませう。

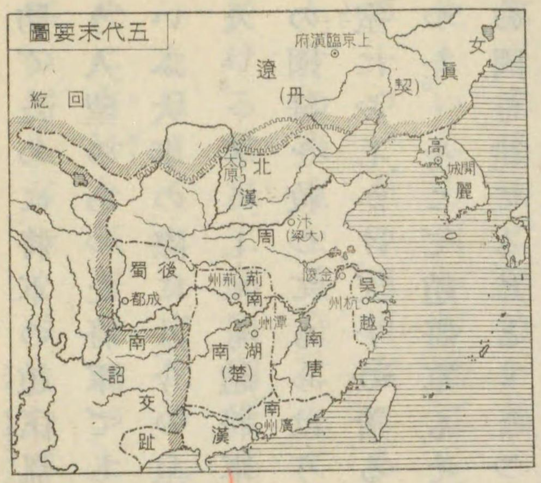
かうして一千年もの昔に、我が國が滿洲にあつた國と親交があり、日本海を湖水とする交通が開かれたといふことは、今日の事情に照らし合せても、興味ある史實ではありませんか。

九　論語の活用

——五代と宋との時代——

纏足の始り

さて後梁が唐に代つて興つてから五十四年間といふものは、唐末の紛亂のつゞきともいふべき時代で、後唐、後晉、後漢、後周と併せて五つの王朝が興亡したので、五代といふ名がつけられて居ます（五つの中で後唐・後晉・後漢は、トルコ種出身の將軍が皇帝になつた國です）。けれどもかういふ國々は、支那の廣い土地の支配に成功したものではなく、僅に黄河の流域を中心とした地方を、保つ



だけで、他にはそれ〴〵勢力ある武將が割據して、國を建て王を稱して、之れに反抗してゐました。さういふ國が前後十國もありましたから、此の時代を五代十國の世ともいひます。

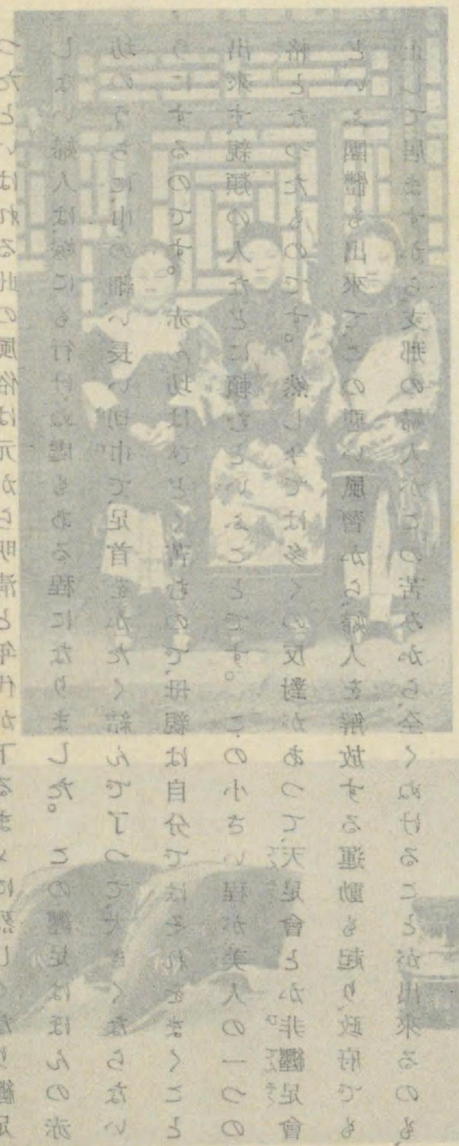
その間に前にいつたやうに、今の熱河省北方に興つた契丹族の酋長耶律阿保機は、滿洲の渤海國を滅して勢を張り、その子は支那をもおびやかし一時は後晉の都であつた大梁（河南省開封縣）を占領して、そこに根據をすゑようとしたこともありました。この契丹の建てた國を遼といひます。

契丹の侵入は、その後も引きつゞいたので、後周の時にはそれを防ぐために、將軍の趙匡胤を遣はしました。此の人は部下に大さう人望のあつた將軍でしたから、兵士達は其の進軍の途中で、「かういふ大事の際には、今の皇帝のやうな幼少無智の方ではしかたがない。どうしても趙將軍にお願ひして、帝位についていたゞき、この國難を救つてもらはうではないか」と相談をきめ、急に將軍の寢室におしかけ、天子の着る黄袍をきせて、皇帝の位に卽くように迫つた。そこで趙將軍もそれを承知して帝位につき、周に代つて、宋の國を建てることゝなつたといふ話が傳へられてゐます。これは九六〇年のことです。趙匡胤は宋の太祖といはれる人です。かういふ話に見ても、支那の國體はよく分りませう。

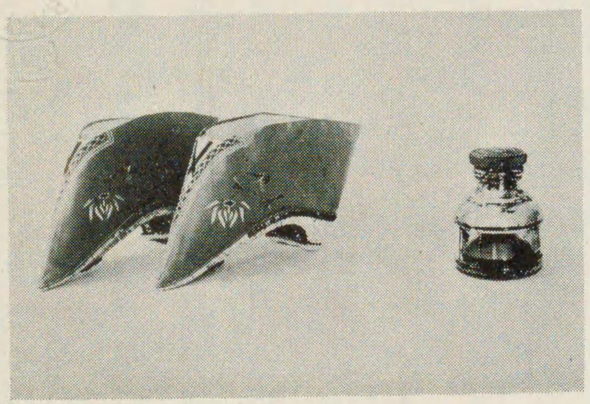
此の五代の世は、よく暗黒時代のやうにいはれますが、實は唐の文化を宋に引きつぐ上の大事な時代でしたし、また北方民族が、次第に漢民族に壓迫を加へて來る傾きを示した上から、支那の民族史といふ方面から見ても、興味がある時期なのであります。十國の一つで、今の四川省にあつた蜀の國の、美術工藝印刷術の發達と か、今の南京を首府にしてゐた南唐の國の、美術の奬勵などは、宋に於ける繪畫、工藝、印刷術等の隆昌の基を作つたものでありました。

なほさうした文化の上の、直接なことではありませんが、此の時代に、奇妙な風俗の起つたことを紹介しておきませう。それは支那の婦人が歩くのもむづかしいやうに、足を小さくする、あの纏足の習慣です。日本でも「馬鹿の大足」といふこともあつて、足の大き

いのは、餘りよくはいはなかつたやうですが、支那ではもと〳〵男も女も、足は小さいのを自慢にします。けれどもこの女の纏足は、その極端になつたものです。このことの起りは、はつきりは分らないのですが、今いひました南唐の宮中で、一宮女が舞を舞ふ時に、足首を小さくくゝり、三日月のやうにして、舞臺に立つたのが評判になり、だん〴〵に足を小さくする風がはやつて來たといふことです。流行といふものは、始はほんの一寸したつまらないことがもとになつて、その結果は非常なことになりがちのものです。この纏足は其の後大へんな流行となり、元から明にかけては、纏足をしないものは女でないといふ程にもなりました。この氣の毒な習慣は、今日でもまだすつかりは止めることが出來ずに、殘されて



(57) 纏足せる支那婦人



(58) 纏足の靴

(57) 纏足をしてる婦人の風を示したものです。本文でいつたやうに、五代の頃に起つたといはれる此の風俗は、元から明、清と年代が下るまゝに烈しくなり、纏足をしない婦人は、嫁にも行けぬ處もある程になりました。この纏足はほんの赤ん坊のうちに、巾の細い長い切巾で、足首をかたく結んで了つて、大きくならないやうにするのです。赤ん坊はひどく苦むので、母親は自分ではそれをまくことが出來ず、親類の人などに頼むといふことです。この小さい程が美人の一つの資格となつたものです。然し今では多くの反對があつて、天足會とか非纏足會などいふ團體も出來て、この悪い風習から、婦人を解放する運動も起り、政府でも禁止して居ますから、支那の婦人がこの苦みから、全くぬけることが出來るのも、近いうちでせう。

(58) 纏足の靴です。インキ壜と比べて、其の大さを知ることができませう。

ゐます。

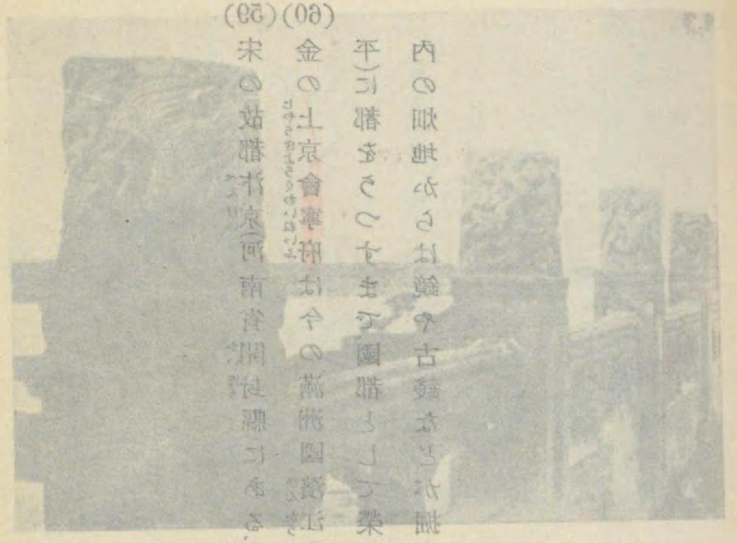
論語の活用

前にいつたやうに、宋の太祖は、兵士に推されて天子となります と、都を汴京（前の大梁と同じ所）にさだめ、他の群雄の征服につとめ、二代目の太宗のときに、すつかり平定することが出來ました。太祖は軍人ではありましたが、兵士の長い間の亂暴を、よく知りぬいて居たので、我が儘を抑へることに骨を折ると共に、一方には學問の奬勵をしました。それで此の宋の時代は學問の發達の上では、大切な時期となつて居ます。

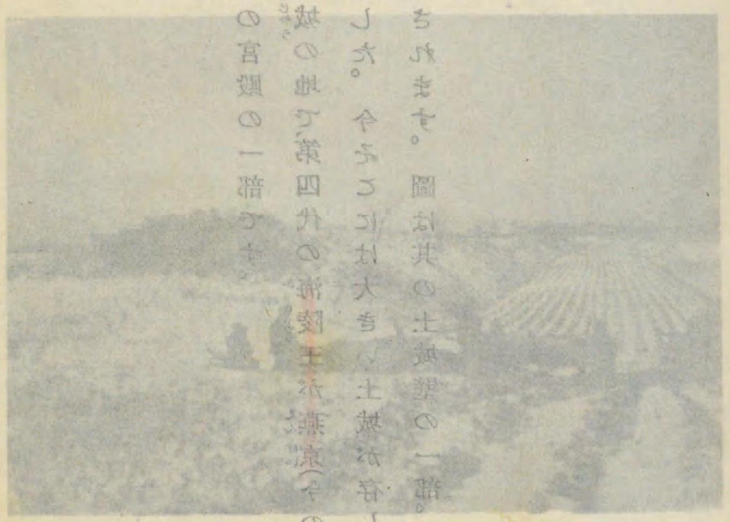
太祖、太宗の時代に、大臣として政にあづかつたのは、趙普と云ふ

人でした。この人は大さう論語を愛讀し、それによつて政治をとりました。あるとき太宗に「臣に一部の論語が御座います。半部を以てさきに先帝をお輔けして、天下を定めました。他の半部を以て陛下のために、太平の治をおたすけ致しませう」といつたといふことです。それで國の基も堅くされました。

さて前にいつた契丹――遼の國に對して、宋の太宗は支那內部の統一が出來ると、兵を出して之れを討ち、其の南侵の路をふさがうとしましたが、却つて敗れ、兩國の關係は面倒になりました。次の眞宗になると、果して遼は大擧南下して來たので、眞宗は親征して、澶州といふ地で大いに之れを破りましたが、遼の願をいれて和を結びました。其の條件は國境は開戰前の通り。遼は宋を兄とし



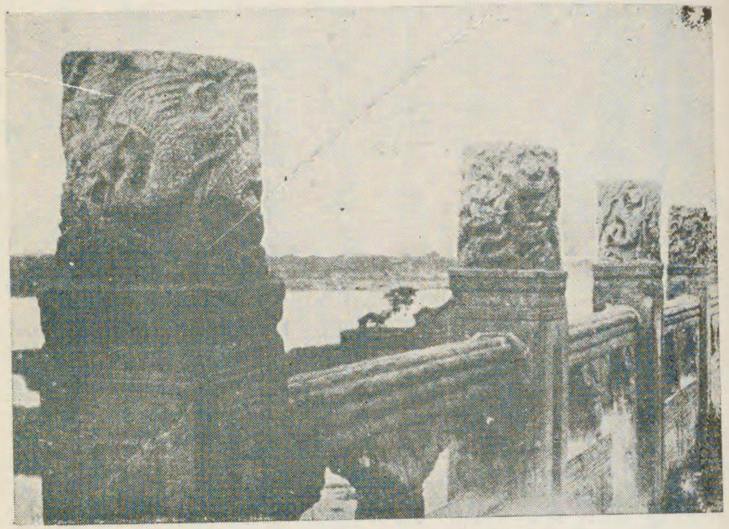
（59）宋の出ちがきを。圖は其の土城壁の一部。



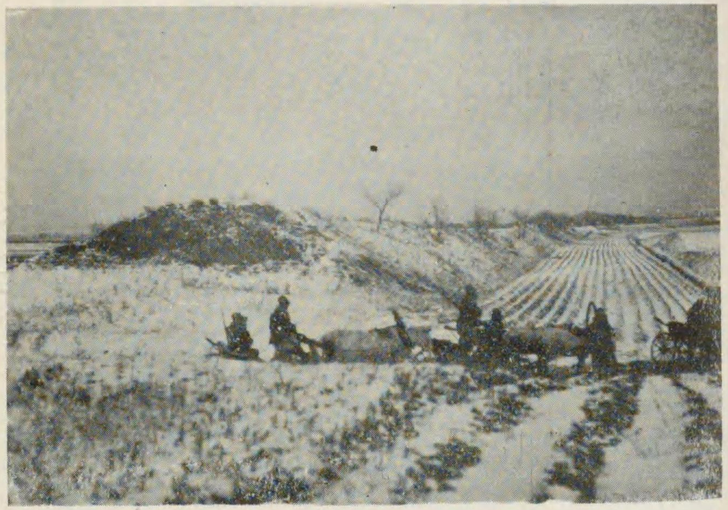
（60）金の國都（今の寧古塔）址の土城壁

(59) 宋の故都汴京(河南省開封縣)にある、もとの宮殿の一部です。

(60) 金の上京會寧府は今の滿洲國濱江省白城の地で、第四代の海陵王が燕京(今の北平)に都をうつすまで、國都として榮えました。今そこには大きい土城が存し、城内の畑地からは鏡や古錢などが掘り出されます。圖は其の土城壁の一部。



宋の故都(汴京)の遺址 (59)



金の國都(會寧府)の土城壁 (60)

て敬ひ事へること。宋は毎年銀十萬兩、絹廿萬匹を遼に贈ること
といふのでした。

此の事件の後に立つた宋の仁宗は、其の治世にえらい人物の多く出たことで有名ですが、對外關係は餘り香ばしくありませんでした。それはチベツト種の西夏といふ國が、今の甘肅省に興つて、宋の西北方を犯したので、之れが擊退につとめたところ、遼はそれを口實にして兵を動かし、宋を脅したから、止むを得ず銀絹の贈物を增加し、西夏にも同樣銀絹を與へることゝして、僅に一時の平安を求めるといふ有樣だつたからです。尤も西夏は宋に臣下として、仕へるといふ約束ではありましたが、かうしたことは、遼が宋を兄として事へると約したことゝ共に、全く形式的な面子(體面)の上

の事で、實質的には大きい損失でありました。かういふ事件は十一世紀の中葉のことでした。宋を脅した遼は、當時聖宗の治世で、其の長い支配は、すぐれた政治的手腕と共に、大領土を開いて、滿蒙から朝鮮半島に及びました。

朝鮮半島では、唐の末には新羅も紛亂の狀態に陷り、群雄が爭をつゞけましたが、その中で王建といふ者が、つひに半島の大部分を統一して九三六年高麗といふ國を建てました。これは支那では前にいつた五代の後晋の初に當ります。高麗は建國後間もなく、支那に朝貢しましたが、遼が强くなると、またそれにも使を出して貢を納めてゐました。

つむじ曲りの大臣

宋が遼や西夏に、莫大な銀絹を贈ることは、財政上の大きい苦みであつたばかりでなく、漢民族の誇を傷けることでもありましたから、どうかして宋の國威を盛り返したいといふ願は、その君臣の共にいだいてゐたところでありました。第六代の神宗といふ皇帝は、年も若く元氣の方でしたから、この事を深く考へた末、王安石といふ人を、拔擢して大臣とし、萬事をまかせました。

王安石は政治家であり、また文章家としても詩人としても、有名な人の一人です。曾て「萬言の書」といふものを上つて、天下國家の改革を論じたこともありました。皇帝の厚い信任の下に富國强

兵の策を考へて、今までの政治のやり方とは、大へんに違つたことを行ふことゝしました。それが新法といはれるものです。

この新法の中には青苗法といつて春の種蒔きのもとでに困る貧乏の百姓には、政府が金を貸してやつて、秋のみのりの後に、利子をつけて返へさせる法もありました。また今までは政府の御用には、平民は或る日數だけは、たゞで働く義務がありましたのを、金を納めさせて之れに代へ政府はその金の一部で、別に人夫を募集して仕事をさせる募役法といふのもありました。これは貧乏な人を救ふのと、政府の收入を增すことを目的としたのです。その他にも市易法とか均輸法などといふのもありました。また軍事教育のためには、全國皆兵主義をとり、人家十戸を一ばん小さい隊

（保といひます）として、弓矢を與へ軍馬を飼はせて、農業の暇に調練させる保甲法、保馬法といふのがあつて、これで國に大事のある時の用にたてる計畫でした。

この方法は、餘りに急な改革でありましたので、反對する人がなか〳〵多く、殊に其の當時の人望第一といはれた司馬光（司馬溫公といふ名でよく知られて居ます。有名な資治通鑑といふ歷史の本をつくつた人です）や、詩文の大家の蘇東坡などは、其の筆頭でした。

司馬光と王安石とについて、こんな話があります。或る日この二人が、ある人に御馳走によばれました。そのとき主人がお酒をすゝめました。二人ともお酒は飲めませんので、おことはりしましたが、主人は「まあ〳〵」としきりにすゝめます。司馬光は主人があまりにいひますので、一口、飲みましたが、王安石はとう〳〵盃をと

らなかつたといふことです。司馬光は立派な正直の人であつた上に、さういふ風に相手の人に、氣まづい思ひをさせない性質もありました。王安石も決してわるい人でないどころか、立派な人です。けれども、自分の思ふこと、やりたいことは、何處までもやり通す——他の人の心持はどうであらうと——といふ所があつた人です。王安石のもつと頑固であつたことの話としては、あるとき神宗のお伴で、釣をして居たとき、釣の餌をお辨當と間違へてつまんだ。一口食べて氣はついたが、とう〳〵それを平げたといふのがあります。ほんとうの事ではありますまいが、そんなことが傳へられるやうに、剛情な人だつたのでせう。それで時の人々は、王安石のことを、拗相公（つむじ曲りの大臣）と、いつて居たといふことです。

さて王安石の新法は考へとしては、まことに立派でしたが、反對する人々に、人望のある名臣が多く、安石の部下で仕事をする人々が、とかく人望の少い人達でしたから、反對が多くなりがちでした。それに政府の收入を增すことのためには、前よりは人民から取るものも、多くなりましたので、人民は司馬光等に力をそへました。それで折角の企も、いゝ結果ををさめることが出來ず、ただ政治上の爭ひをひどくするにすぎませんでした。

これからこの新法の黨派と、反對黨（舊法黨）との爭がつゞきました。司馬光も一時は總理大臣として、立つたこともありましたが、其の死後には、司馬光ほどの人物が、舊法黨にもなく、たゞこの二つ

の黨派は、何でも自分の方が政治の實權をとればいゝ、自分が大臣になればいゝといふことばかりを、考へる人々となりましたから、そんなことで國がしつかりする筈もなく、宋の政は日ましに衰へて來ました。

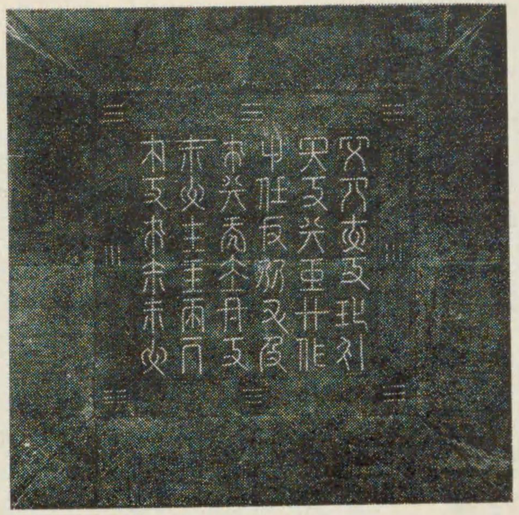
新文字の創作

遼が滿蒙の大勢力となつたことは、前に一言しましたが、一體この五代から宋にかけては、北方の民族が、だん〳〵南の漢民族を壓迫し始めて來た時で、それは武力で強さを示したばかりでなく、文化の上にも、其の特性を示さうとしました。さうした現はれの一つは、漢字に對して自分達の新文字を、作らうとしたことに見られます。遼の第一代の太祖のときに作られた契丹文字は、其の最初のものであります。契丹文字は今日ではまだ讀むことは出來ませんが、どんなものであるかといふことは、挿畫第61圖を御覽になれば分りませう。

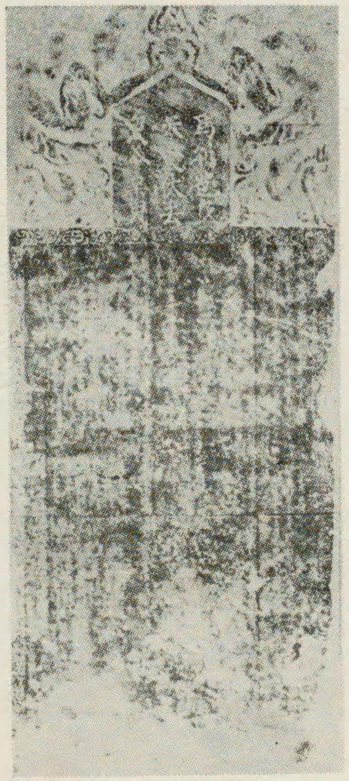
遼が契丹文字を作つたのに眞似したのか、西夏の國でも亦その特別な文字を作り出しました。それは西夏文字と呼ばれてゐます。これは漢字と對照の字書なども殘されてゐて、大體讀むことができます。（挿畫第79圖參照。）かういふものを作るには作りましたし、それが漢人文化との、對抗の意味があるにはありましたが、實際はやつぱり制度や學問と同じやうに、漢字の勢力には、敗けてしまつたのです。漢人の文化の力といふものは、よく〳〵かういふ點からも、觀

察して見る必要があります。

さて遼はさきに一言した、聖宗の時が黄金時代で、それからあとは次第に衰へて來ました。さうすると遼に抑へられてゐた、滿洲のツングス種の女眞族が、頭をもちやげて來ました。此の女眞族は、前の渤海と同じ種族に屬するもので、南滿洲から松花江流域へ分布してゐたものであります。其の中で今のハルビンの東南、アルソカ河畔に根據した完顏阿骨打(金の太祖)といふ酋長は、遼の弱つて來たのを見て、之れと開戰し、女眞族を統合して、一一一五年には皇帝を稱し、國を金と號しました。其の始めの首府會寧府は、今の濱江省阿城縣の南の白城といふ地です。此の金の國でも、建國後間もなく、女眞文字を制定して、それを使用しようとして、いろい



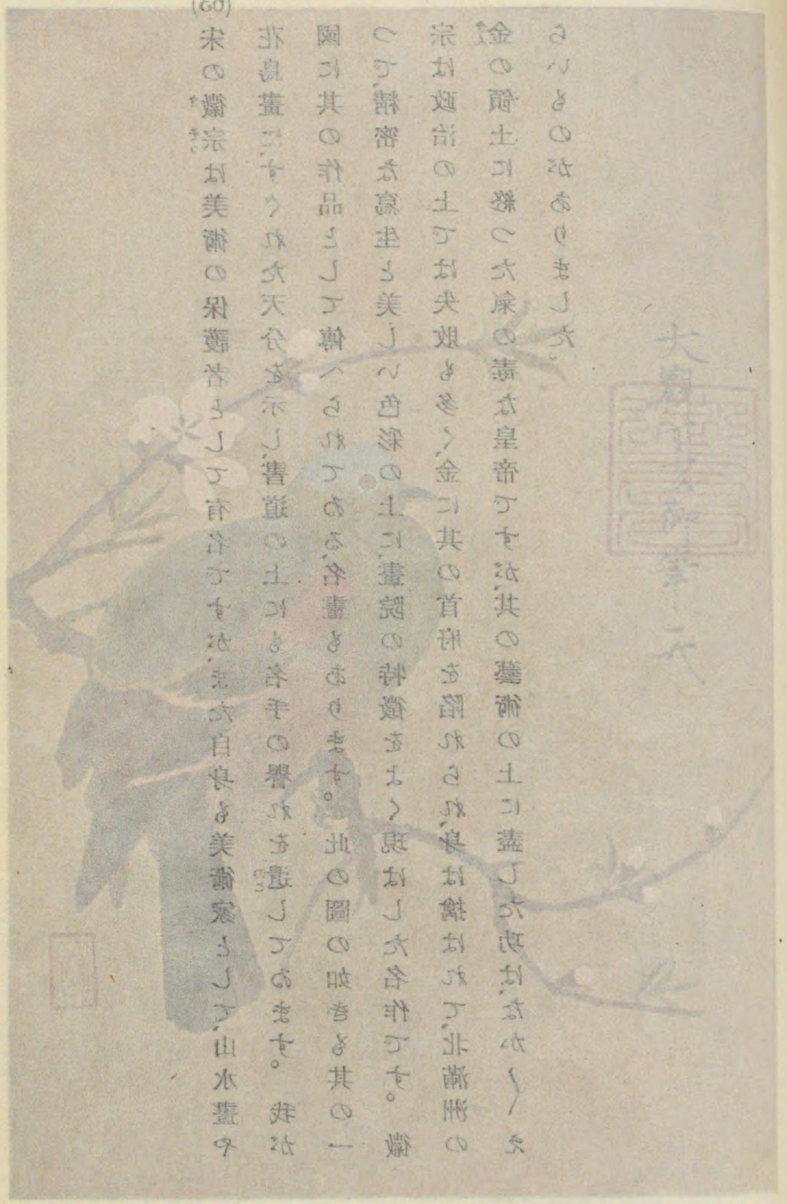
(61) 契丹文字



(62) 女眞文字

(61) 契丹文字は本文で記したやうに、遼（契丹）の太祖のときに作られたが、其の實體がどんなものであつたかは、長い間の疑問でした。それが滿洲事變の結果その文字を刻した遼の皇帝や皇后の哀冊と想はれるものが、奉天に存在してゐたことが分り、學界の一大センセーションとなりました。之れはもと興安西省の遼の陵墓の中にあつたものが、掘り出されて奉天に運ばれてゐたのです。哀冊といふのは、死なれた皇帝や皇后を哀しみ悼む文を綴り、之れを石に刻して、陵墓の中に置いた碑文です。本文を刻した石の上に、更に篆蓋といつて蓋石を置きました。此圖は其の篆蓋の方です。まだ此の文字は解讀することが出來ず、學界の謎とされてゐます。

(62) 女眞文字の一例。金でも遼にならつて、其の特殊の新文字を作りました。之れは河南省開封縣にある碑文で、進士に及第した人々の紀念に建てたものといふことです。女眞文字はいま幾分かは解讀ができます。



(63) 宋の徽宗筆鳩と桃

桃と鳩筆宗徽の宋　(63)

(63)

宋の徽宗は美術の保護者として有名ですが、また自身も美術家として、山水畫や花鳥畫に、すぐれた天分を示し、書道の上にも名手の譽れを遺してゐます。我が國に其の作品として傳へられてゐる、名畫もあります。此の圖の如きも其の一つで、精密な寫生と美しい色彩の上に、畫院の特徴をよく現はした名作です。徽宗は政治の上では失敗も多く、金に其の首府を陷れられ、身は擒はれて、北滿洲の金の領土に終つた氣の毒な皇帝ですが、其の藝術の上に盡した功は、なか〳〵えらいものがありました。

ろ努力しましたが、遼と同じやうに、結局は全く漢字に壓倒されてしまひました。女眞文字は多少は讀むことが出來ます。挿畫第62圖參照。

滿洲でかういふ騷動の始つた頃は、宋では前にいつた黨派の爭ひのつゞけられてゐた時でした。金の興つたことは、遼に苦んだ宋には、いゝ味方が出來たともいふべきものでありました。そこで宋の徽宗は金の太宗と同盟して、一一二五年つひに長年の敵であつた遼を滅しました。然しこの戰爭の間に、宋の弱いことを見ぬいた金は、其の野心を逞しくして、宋をも併呑しようと、大兵を下して國都汴京を攻めおとし、徽宗とそれについだ欽宗や、皇后を始め、大臣以下の官吏や人民を捕虜とし、また宮中や國都の、目ぼしい財寶を掠奪して、北に歸りました。

此の徽宗は大さう美術の好きな方で、多くの美術品も集めれば、自分でも花鳥畫などを上手にかゝれました。また庭園を造られることも好きで、國中から珍らしい草木や石などを取りよせられて、その運送のために人民を苦めたことも多く、いろ〳〵な騒動も起つた程でした。

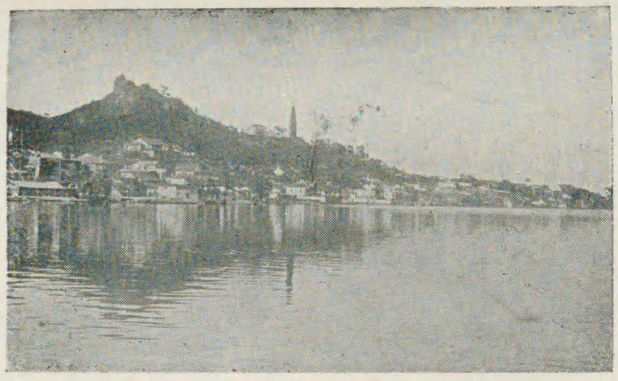
恥の鐵像

かく皇帝も大臣も敵國にとらはれたので、宋の臣下は、欽宗の弟の高宗を立てゝ、南の方の臨安（浙江省杭州）に都をうつし、そこで回復の謀を致しました。宋はかく汴京首府の時代と、後の臨安國都の時代とは、國勢も異り、領土にも大變化がありました。史上では前期を

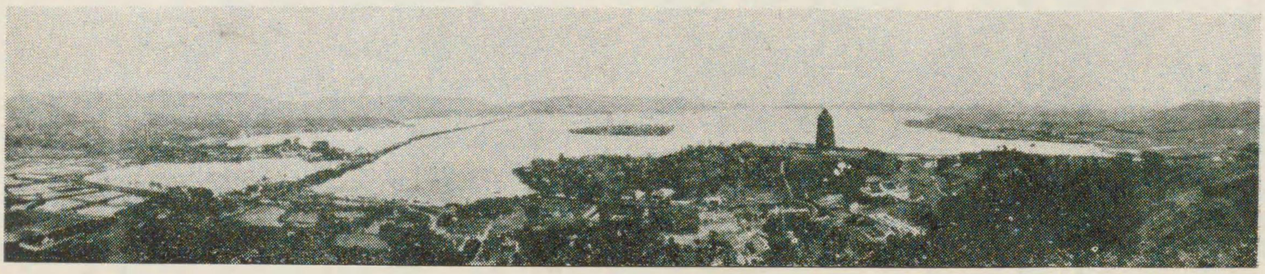
(64)(65)宋が南に遷つて首府とした臨安(浙江省杭州)の城外の、西湖の景。此の湖は周回二〇キロメートルばかりあり、風光明媚の地として、古來有名であるばかりでなく、幾多のロマンスを傳へる古跡も多く名刹古寺も此の湖邊に存してゐます。

(64)に見える塔は保俶塔といひ、塔影の水にひたつた姿は實に優美そのものです。

(65)に見える塔は雷峯塔といひますが、十餘年前に崩壊したといふことです。

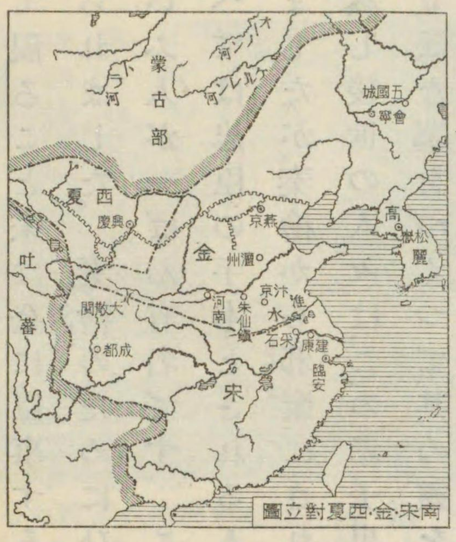


(64) 浙江省杭州西湖の風景



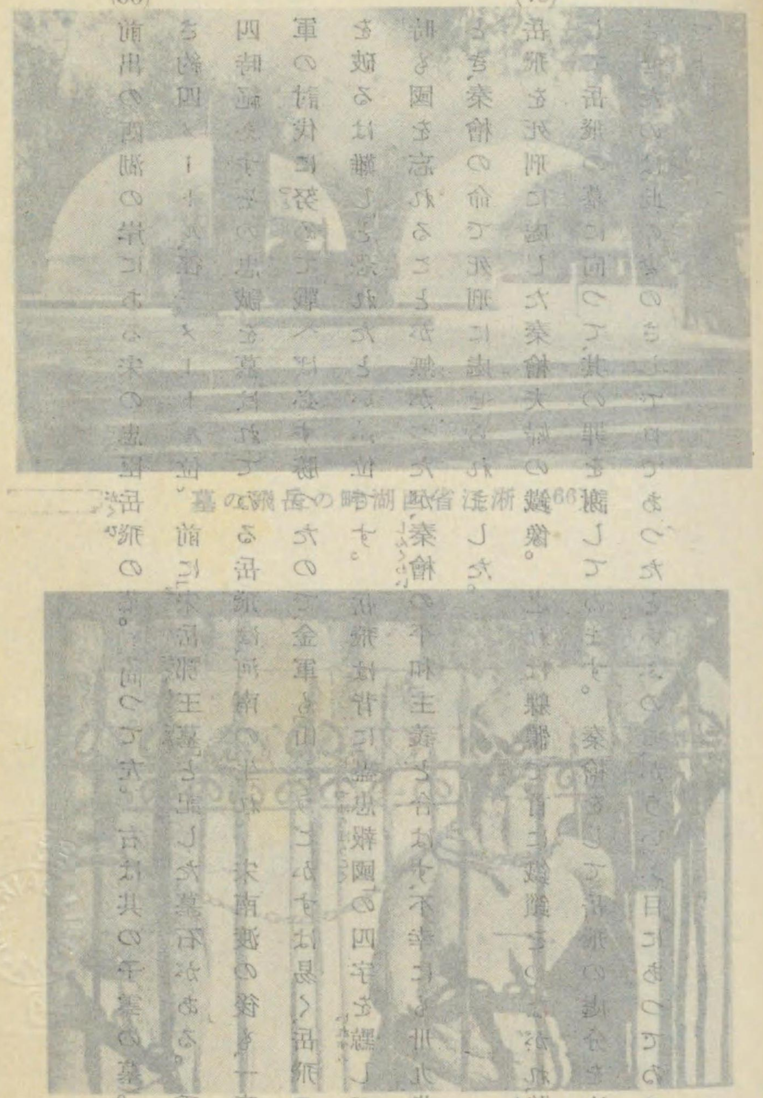
(65) 西湖の大觀

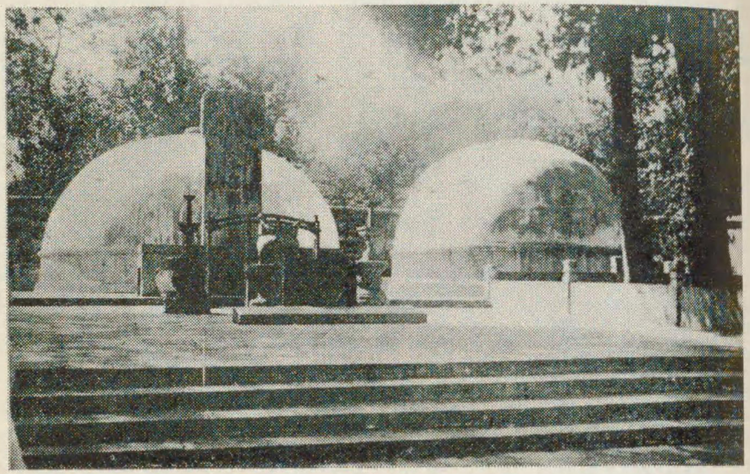
北宋、後期を南宋と區別して呼びます。大いに戰つて北の蠻人を、やつつけようとする軍人もあれば、いや〳〵今はとても實力がないから、暫く忍んで他日の復讐をしようといふ者も出て來まして、和戰の議論が盛でした。そのとき前に金に擒にされたが、やつと逃げ歸つて來た秦檜といふ人が、用ゐられて大臣となりました。秦檜は今は國の力が弱いからといつて、盛に和議を主張しまして、現に金軍に對して、勝利を得てゐる軍人はいふまでもなく、金を仇と強い戰爭論をする、學者などをも壓迫して、一一



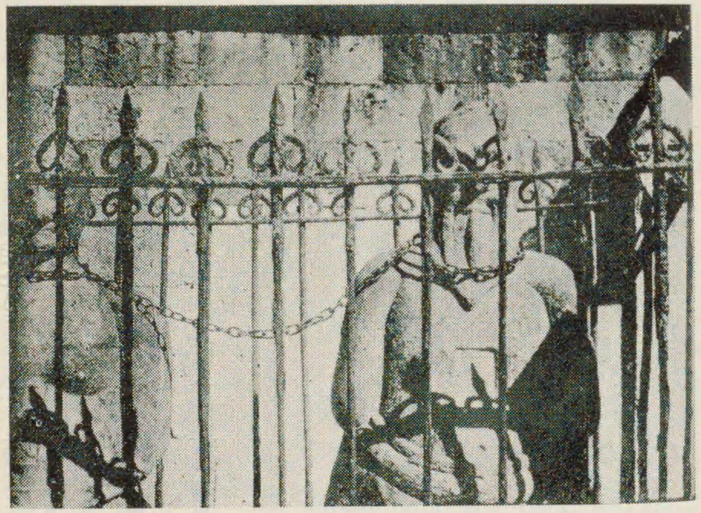
南宋・金・西夏對立圖

四一年に金との平和條約を結びました。それで宋と金との境は、西は陝西の大散關、東は黄河と揚子江との間の淮水といふ河を以て限ること、宋は金に臣事することや、貢を納めることなどがきめられました。秦檜のためにひどい目にあつた將軍の中で、岳飛といふ人が一ばん有名です。この人は親につかへては孝、君につかへては忠臣の手本とされる人で、また武勇にかけてもすぐれて居ましたが、秦檜から邪魔にされて、死刑に處せられてしまひました。然し後世の人々は、この孝子忠臣を慕ひまして、杭州の西湖の畔に立派な墓をつくつて、其の靈を慰めると共に、其の墓所の外には、鐵の秦檜夫婦の裸躰像を置き、鐵の鎖で之れを繋いで、永久に罪をわびてるやうにしてあります。今は禁じられては居ますが、前には





(66) 浙江省西湖畔の岳飛の墓



(67) 岳飛墓前の秦檜夫妻の鐵像

(66) 前出の西湖の岸にある宋の忠臣岳飛の墓。（向つて左。右は其の子雲の墓）。高さ約四メートル、徑三メートル位。前に「宋岳鄂王墓」と記した墓石がある。香花四時絶えず、その忠誠を慕はれてゐる岳飛は、河南の生れ。宋南渡の後も、一意、金軍の討伐に努めて戰へば必ず勝つたので、金軍も「山をうごかすは易く、岳飛の軍を破るは難し」と恐れたといふ位です。岳飛は背に「盡忠報國」の四字を黥して、瞬時も國を忘れることが無かつたが、秦檜の平和主義と合はず、不幸にも卅九歳の時、秦檜の命で死刑に處せられました。

(67) 岳飛を死刑に處した秦檜夫婦の鐵像。之れは躶體で首に鐵鎖をつながれ、跪坐して岳飛の墓に向つて、其の罪を謝してゐます。秦檜をして岳飛の處分を決心させたのは、此の妻のさしでロであつたといふので、かういふ目にあつてゐるのです。

岳飛のお墓まゐりをする人々は、きつとこの鐵像に小便をかけたものだといふことです。

金は此の條約で、支那本部の北半を、其の領土に入れることが出來ましたから、海陵王といふ皇帝は、一もみに此の宋を滅さうと、まづ都を今の北平にうつし、大軍を南に下しましたが大敗し、次の世宗のときには、宋におわびをする意味で、條約を少しゆるめて、宋の面目の立つやうにしました。それからの四十年ばかりは、兩國とも無事で、殊に宋では學問の非常に進んだ時ともなりました。

ところが宋は、野心ある大臣の失策で、やがてまた金と戰爭をはじめて敗れ、そのため金に澤山の償金をとられることになりました。これで國力は一層衰へて來ました。金では世宗は一代の名

君といはれた人で、いろ〳〵政治上の整頓もし、殊に國粋保存の政策で、國民の自覺をよび起しなどしましたが、なか〳〵效果はなく、次第に國力にゆるみが見えて來ました。さうかうしてゐる中に、西北の外蒙古の地に蒙古族が興つて來たので、之れに苦められるやうになりました。

畫筆の誇

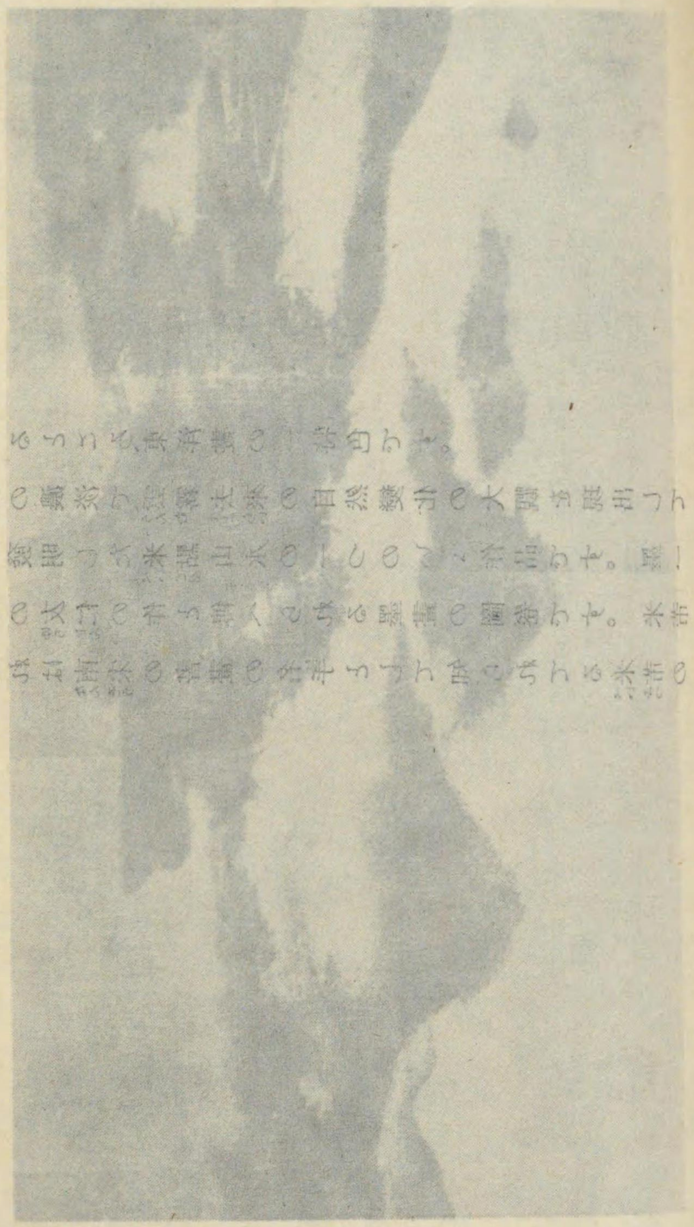
宋は遼(契丹)や金(女眞)に苦しめられ、次に述べるやうに、遂には蒙古に滅ぼされました。武力の方からいへば、いかにもいくぢのない一時凌ぎもやりましたが、三百年にわたつて、北方民族と戰ひつづけたことは、決してなみ〳〵の努力とは申されません。それはそれとして、學問美術の上からいふと、支那の歴史上まことに大切な時代だつたのです。

太祖以來學問に熱心で、戰亂の間に散らばつた書物を、探し集める、又いろ〳〵の書物の編纂出版をする。中には大藏經といつて、佛教の經文全部をまとめた、大叢書の出版もさせました。また美術のためには、書院や畫院を設けて、美術家の保護、美術の奬勵も致しました。かういふ皇帝たちの好みは、臣下にもうつつたから、學者や詩人や美術家の、多く出たのも當然のことでせう。

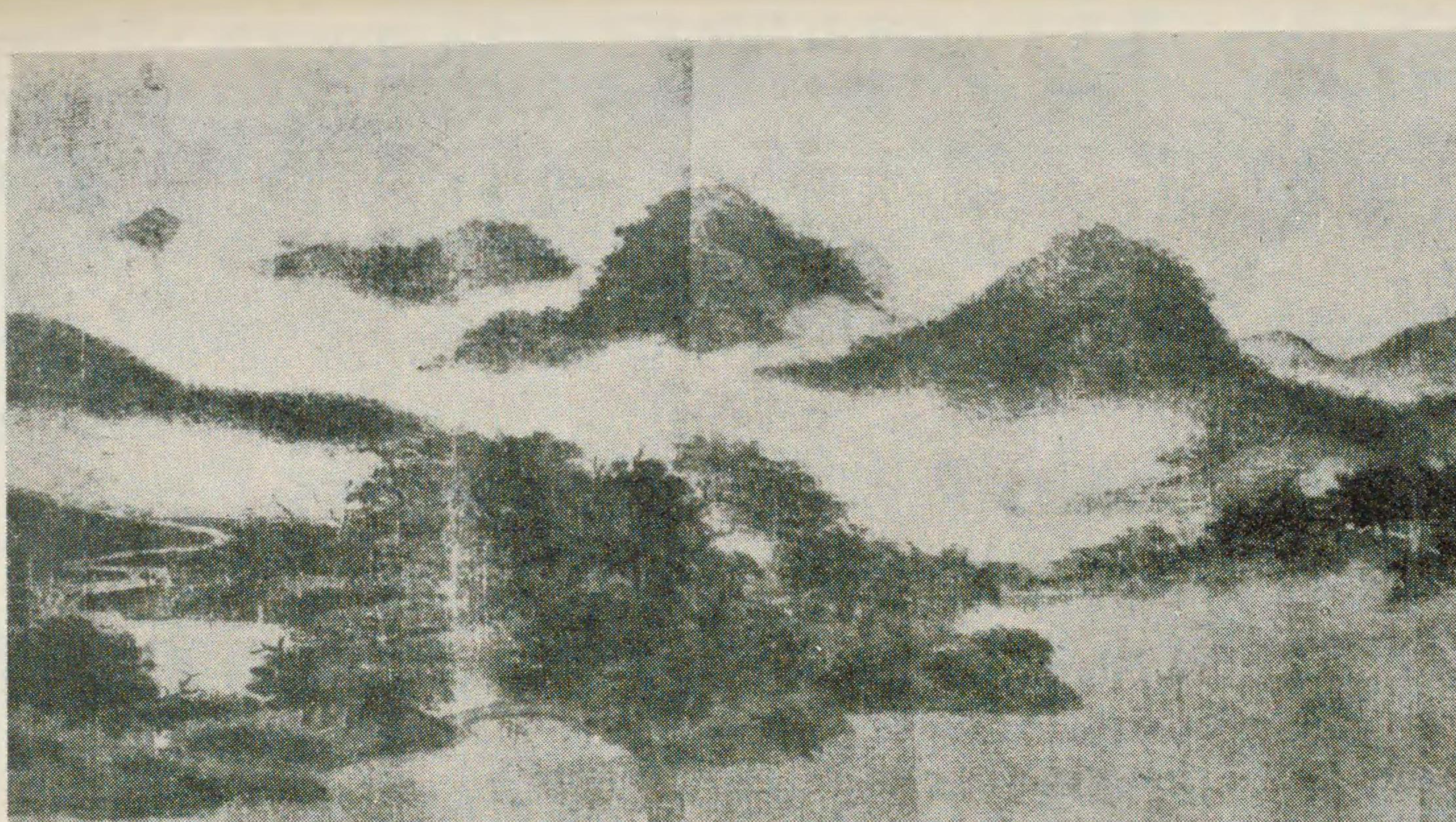
學者には程顥、程頤の兄弟が、儒學に新しい說を立てましたが、それを大成したのが朱熹(卽ち朱子)です。朱子は多くの著書を殘しましたが、その學說は、後世の支那に影響したばかりでなく、我が國

にも朝鮮にも及びました。我が徳川時代などは、漢學といへば、すぐこの朱子の學問の別名と思ふ位でした。文章の名家も多くありましたが、詩文ともにすぐれたのは歐陽修や蘇東坡（名は軾）です。東坡の「赤壁の賦」はよく知られてゐます。（この人は衞生のことにも注意し、料理法にも通じて居ました。その發明したといふものに、おいしい東坡肉といふのがあります。支那料理で御承知の方もありませう。）

かういふ學問の發達、編纂の事業が盛になつた結果、印刷術の進歩は、宋の一大特色でありました。支那では印刷術は、すでに隋のときに起つたといふことですが、たゞ宋以前のものは殆ど現存しませんから、宋代の版本は、特に宋版といふ名で貴重なものとなつてゐます。なほ木版ばかりでなく、仁宗のときには畢昇といふ人によつて、とう〳〵活字版が發明されました。この活字は膠でつ



(68)之れは南宋の書畫の名手として知られてる米芾の子の友仁の作と傳へられる墨畫の圖卷です。米芾の發明した米點山水の一つのいゝ作品です。墨一色の濃淡で雲霧去來の自然變化の大觀を現出してゐるところ、東洋畫の一特色です。



(68)宋の米友仁筆雲山圖卷の一部
(亖)

くつたもので、一字一字ばらばらになるから、一字版といふ名もありました。この發明は、今から九百年近くも昔のことで、西洋で金屬活字が發明されたよりは、四百年も前のことです。木版印刷のことにしても、西洋では支那から傳へられたのです。たゞ不幸にも、此の支那の活字印刷は、十分な發達をしないで、中絶してしまひました。

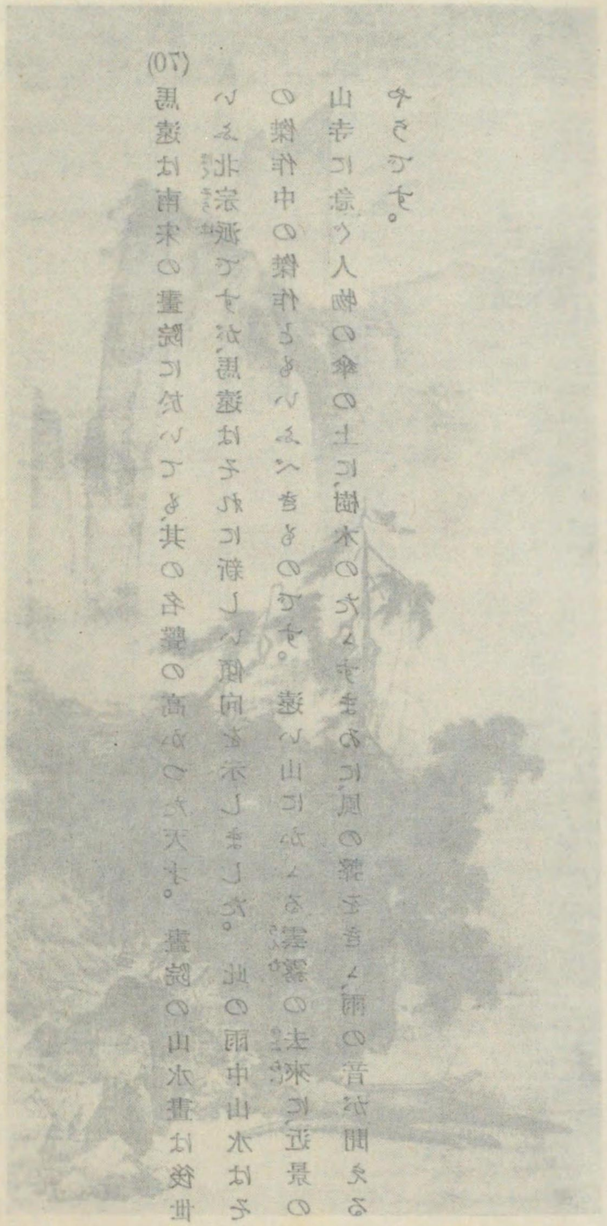
美術殊に繪畫に多くの天才の出たこと、此の宋の時代のやうなことは、例が多く御座いますまい。山水畫には前にいつた唐の李思訓の風をうけたものに、李成、范寬が居ます。さうしてこの畫風は畫院の中心をなしたもので、その線やぼかしのくつきりしたこと、青綠などの彩色、宮殿式の建築の配置とかいふものに、貴族的な

趣味を現はしました。これに對して王維の畫風を受けた者には、董源や巨然が現はれ、米芾その子の友仁が出ました。水墨で柔かみがあり、しつとりした氣分の風景をかきました。殊に米芾は、ぼつぼつ點をうつて、それで山や木の姿や氣分をよく現はしました。このやり方は米法といはれて居ます。この王維から米芾等にわたる畫風――南宗畫または南畫――は、更に元になつて大に勢力を得ました。畫院の山水畫でも、後に出た夏圭、馬遠または梁楷などになると、趣が違つて來て、墨でいろ〳〵の氣分を出すことに成功しました。中にも梁楷は山水にいゝものもありますが、人物畫にすばらしいものをかきました。あらつぽい筆、ごく簡單な墨の線しかつけませんが、それで人物をいき〳〵とさせて居ます。こ

(60) 宋の梁楷筆踏り布袋の圖

(69) 宋の梁楷筆踊り布袋の圖

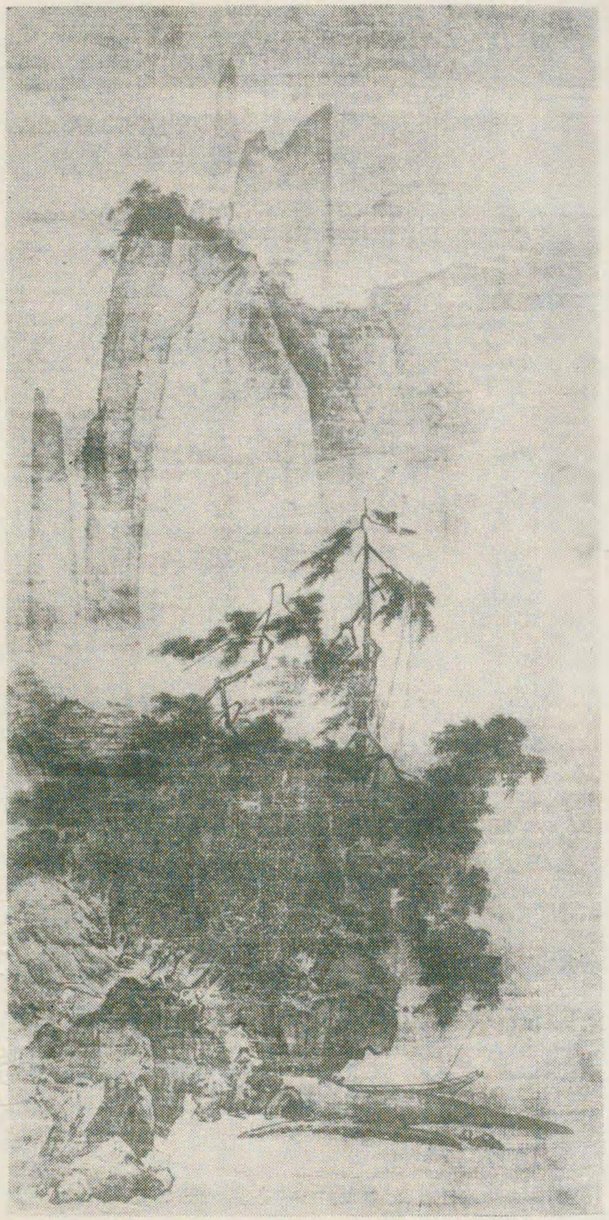
(69) 梁楷（りやうかい）も南宋の畫院で、獨特の作風を示した人。其の作品には精密な山水畫もありますが、此の畫のやうな省筆（せうひつ）で人物をよく躍動（やくどう）させ、生々（いき〳〵）とした氣分を現はすことに長じて居ました。之れはさういふ省筆の最もすぐれたものであり、また墨畫の妙味を、最もよく出したものでもあります。



(70)

山寺に急ぐ人物の傘の上に、樹木のたゝずまるに風の聲をきゝ、雨の音を聞きる
の傑作中の傑作ともいふべきものなり。遠い山にかゝる霧の去來に近景の
いふ北宗派なりと、馬遠はそれに新しい傾向を示しました。此の雨中山水はそ
馬遠は南宋の畫院に於いたも、其の名聲の高かの大天才。畫院の山水畫は後世

圖の水山中雨筆遠馬の宋 (70)



(70) 宋の馬遠筆雨中山水の圖

(70) 馬遠は南宋の畫院に於いても、其の名聲の高かつた天才。畫院の山水畫は後世いふ北宗派ですが、馬遠はそれに新しい傾向を示しました。此の雨中山水はその傑作中の傑作ともいふべきものです。遠い山にかゝる雲霧の去來に、近景の山寺に急ぐ人物の傘の上に、樹木のたゝずまゐに、風の聲をきゝ、雨の音が聞えるやうです。

の「踊り布袋」（插畫第69圖）などは、畫もをどつて居ますが、見る人々もそれにつりこまれさうではありませんか。

花鳥畫には、畫院の特色をよく出したものがあります。徽宗も山水花鳥の名家でしたが、李安忠はその第一の人でした。花鳥畫も山水畫と同じやうに、後世では南北の二つに分類されます。北派は黃氏體（黃居寀といふ人を其の始めとします）といひ、畫院の畫風がそれで、南派は徐氏體（徐熙といふ人を始とします）といひました。そのほか、人物佛畫には李龍眠（公麟）といふ大家も出ました。又このときには、文學者や僧侶で、墨畫の筆を採る人も多くなりましたが、中にも牧溪は最もすぐれた人でした。雲間に隱見する龍の墨畫なども、此の宋から盛になります。

繪の具を主にせず、たゞ形の寫生だけにとゞまらず、簡單な筆と

墨の濃淡とで、自然でも人物でも仙人でも、その氣分をよく現はし、その精神を傳へることの出來るのは、支那畫(また日本畫)にのみ見られる所です。ごくつまらない、味もなさゝうに見えて居ても、それは味へば何ともいへぬいゝ味があるのです——ちようどそれは、シトロンや味つけのソーダ水もいゝでせうが、山からの清水が何ともいへない味をもつてゐるやうに。その墨畫にはこの宋の時が最も大切な發達が見られたのであります。

一〇 蒙古風

——元の時代——

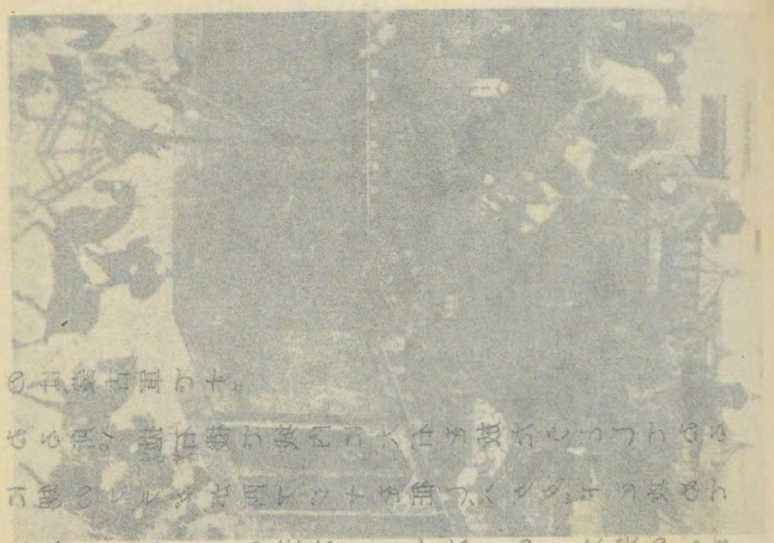
少年酋長

宋と金とが戰をして、お互に弱つて來た頃に、外蒙古の北部、オノン、ケルレンといふ二つの河の流れ出る地方に、游牧してゐた、蒙古族の一部落の酋長の子に、テムヂンといふ少年がありました。父のエスガイは、附近の部落を征服して、なか〳〵の勢力をはりましたが、この少年の十三のときに死にましたので、一たん從つた部落も、この少年を馬鹿にしてそむきました。テムヂンは父のとき

のやうに、勢をもり返さうとする、大きい心を忘れぬと共に、兄弟と母に孝行をつくすことも忘れませんでした。それは野に山に川に、獲物を求めて、その日を暮らして行くといふ、貧しい生活ではありましたが、賢い母と、すぐれた子供たちは、平和に其の日〳〵を送つて、來るべき日を樂みました。それで「母夫人の野蒜、らつきよう

で養つた子どもは、帝王を望むに至つた」と、蒙古の本には書いてあります。

テムヂンは年の長ずるまゝに、すぐれた才能を示し、蒙古の諸部落を征服して、父のときにまさる大きい勢力をつくりました。それで一二〇六年（我が國では土御門天皇の御代。源實朝が將軍の時です）には、つき從つた酋長等の上に立つカカン（可汗）（漢字では可汗と書きますがは大、カンは君長の義）即ち大酋長となり、チンギスカカン（成



のやうに、勢をもり[illegible]
母に孝行をつくす[illegible]
に、獲物を求めて、そ[illegible]
りましたが、賢い母と、[illegible]
つて、來るべき日を樂み[illegible]
で養つた子どもは、帝王[illegible]
ります。

テムヂンは年の長ずる[illegible]
落を征服して、父のとき[illegible]
れで一二〇六年[illegible]

(71) チンギス汗と其の四子

(72) 之の前で、四子が師から講學を受けて、此の圖はチンギス汗の

ヲゴタイ(太宗)及び[illegible]
の西征に從軍した[illegible]
の西征に從軍した[illegible]
ヲゴタイ(太宗)及び[illegible]
つたものです。右側に並んでるのが、ジュチ、チャガタイ、

(71) チンギス汗と其の四子

(72) 蒙古軍のバグダッド攻撃

吉思可汗、略して成吉思汗とも書きます)と稱することになりました(蒙古は後に國の名を、元といひましたから、チンギス汗のことを、元の太祖ともいひます)。

それから西南の西夏も攻めれば、東の金の領土にも兵を出して、黄河の北方を占領し、更に西に出ては、中央アジアの侵略を企て、四人の子をひきゐ、親ら出陣して大いに勝利を得、その先鋒は南ロシアの地までも荒らし、一軍はインドに侵入しました。チンギス汗はついでその大領土を、四人の子に分ち與へ、さうして一二二七年には西夏を滅し、金を一もみにしようと、兵を進めましたが、途中で病の爲めにたほれました。

そのあとでクリルタイといふ會議が開かれて、皇帝を選ぶこと

となり、三男のヲゴタイといふ人が位につきました。これが太宗です。この會議は蒙古には古くからあつたもので、チンギス汗が可汗の位についたのも、此の會議によつたのでありますが、後には國の大事は、皆これできめることゝなりました。

惡魔の天降り

チンギス汗の武功でひろめられた蒙古の領土を、更に大きくしたのは、其の子孫だちであります。第二代の太宗は、始め宋と同盟して、一二三四年に金を滅して、その地の大部分をとり、ついで朝鮮半島の高麗を服屬しました。が蒙古の武力の偉大さは、ヨーロッパへの侵入に見られます。一二三六年太宗の甥のバツ(拔都)を、總

司令官とする五十萬の大軍は、首府のカラコルムを出發して、シベリヤの南方を通つて、南ロシヤに入り、北に向つてリヤザンとかモスコウとかいふ町々を、蒙古馬の蹄に荒らしてから、二つに別れて、一つはハンガリヤの方に入り、分れた一つは、ポーランドから更にドイツ領に入つて、一二四二年にはワールスタットといふ町で、ヨーロッパ諸國の聯合軍を擊破し、ハンガリヤに來て、別軍と合し、更に大いにヨーロッパを攻伐しようとしましたとき、太宗死去の知らせがあつたので、東へ引き上げることゝなりました。たゞバツ(拔都)は新に征服した南ロシアの一部分と、中央アジヤの一部とを領して、キプチヤク汗國といふ國を建てゝ、その王となりました。

この侵入は到る處で、殺人放火强奪といふ惡い事は、何でもやつ

たのですから、ヨーロッパ人の驚きと恐れとは、一通りや二通りではありませんでした。蒙古兵は敵を倒したときは、其の軍功のしるしに、相手の鼻を切り取りましたが、それがこの時の戦だけでも、二十七萬もあつたといふことです。其のむごかつたことは察することが出來ませう。クリスト教の迷信の強かつた、當時のヨーロッパでは、之れを自分達の罪を罰するために、神から下された悪魔だと思つて、その犯した罪の悔い改めをするものもあれば、悪魔退散の御祈禱も、盛であつたといふことです。

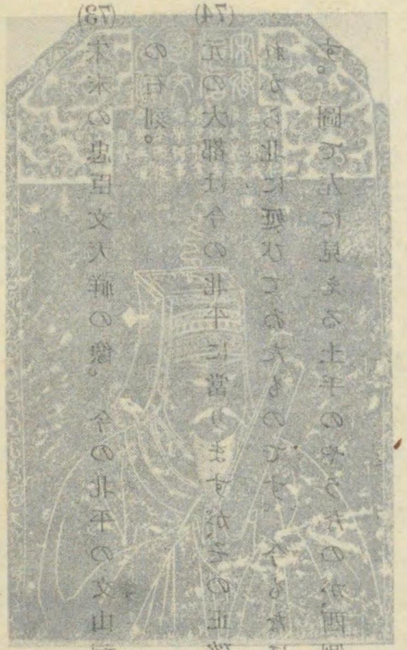
その後第四代の皇帝憲宗のときには、その弟のフラグといふのが、また西の方に遠征して、小アジヤ方面までも征服して、そこにイル汗國を建てゝその王となりました。かうしてヨーロッパの一部にも、中央アジヤ、西アジヤにも、勢力をのばすことが出來ました。これと共に憲宗は、かねての宿題だつた、宋を滅して、天下統一を遂げようと致しました。それで兵を下して、今の雲南、四川の方面の國々を從へ、弟のクビライ(忽必烈)等と、道を分けて宋に迫りました。蒙古の兵は宋の諸城に勝ちましたが、憲宗が陣中に歿し、北には内亂が起りましたから、クビライは宋の大將の申出でを好機に、和睦を約して北に歸りました。

蒙古風

クビライ(忽必烈)は、宋と和約をして北に歸る途中で、皇帝の位につきました。我が國を征服しようとして大軍を出し、大敗をした

元の世祖はこの人です。世祖は内亂を平定すると、國都を今の北平にうつし、之れを大都といひ、國の名も支那式に元とつけました。北支那では五、六月の頃になると、蒙古の沙漠に起る旋風のために、ひどい塵をかぶり、知らぬ間に何もかも塵だらけになることがある。ちようど其のやうに、蒙古族の勢力は、今や漢民族の上に、おほひかぶさらうとしたのであります。

世祖は大軍を下して襄陽の城を攻め、ペルシヤ人の工夫した大砲(大石を投げ飛ばす器械)で宋軍を驚し、苦戰の後に之れを陷れ、一方はこれから揚子江を下り、一方にはバヤン(伯顏)といふ名將に命じて、宋の首府をつかせました。臨安の都では之れを聞いて大騒ぎ、文天祥などといふ忠臣は、兵を以て一戰して、もり返しをしよう



(73)　宋の文天祥の像(明代の石刻)

(74)　元の大都の土城址(北平城外)

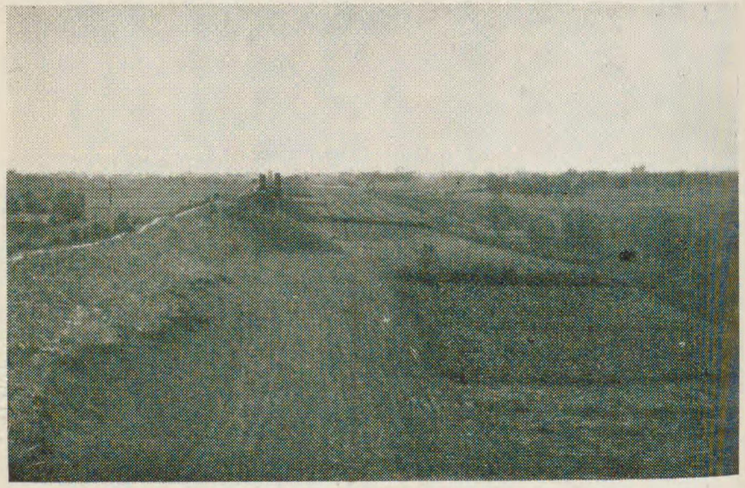
元の世祖はこの人です。世祖は内亂を平定すると、國都を今の北平にうつし、之れを大都といひ、國の名も支那式に元とつけました。北支那では五、六月の頃になると、蒙古の沙漠に起る旋風のために、ひどい塵をかぶり、知らぬ間に何もかも塵だらけになることがある。

(73) 宋末の忠臣文天祥の像。今の北平の文山祠(文天祥を祭つてある祠)にある明代の石刻。

(74) 元の大都は今の北平に當りますが、その正確な城壁は今の北平の内城を含み、そのほかから北に延びてゐたものです。今もなほ其の土城壁は大部分を存してゐます。圖で左に見える土手のやうなのが、西側の城壁の殘りです。

世祖は大石を投げ飛ばす器械で宋軍を驚し、苦戰の後に之れを陷れ、一砲(大石を投げ飛ばす器械)で宋軍を驚し、苦戰の後に之れを陷れ、一方はこれから揚子江を下り、一方にはバヤン(伯顏)といふ名將に命じて、宋の首府をつかせました。臨安の都では之れを聞いて大騷ぎ、文天祥などといふ忠臣は、兵を以て一戰して、もり返しをしよう

(73) 宋の文天祥の像(明代の石刻)



(74) 元の大都の土城址(北平城外)

とつとめましたが、一方には弱音を吐くものもあつて、ぐづ〳〵して居るうちに、元の兵は忽ち都を陷れ、皇帝恭帝皇太后その他多くが捕虜とされました。

さうしてまた元に降參するものも多くありましたが、なほあくまで元に反抗する者は、北におくられた皇帝の兄弟を奉じて、海岸づたひに南の厓山にうつつて、そこに立てこもりました。元は之れを追つて水陸から攻めたので、宋の力戰も功なくて敗れ、文天祥は執へられて大都に送られる、一二七九年には、元の攻撃がますますひどくなつたので、今はこれまでと、霧に乘じて船で海上に逃れ、陸秀夫といふ忠臣は、まづその家族を海に投じ、つゞいて當時九歲の宋の最後の皇帝を背負つて、水に投じて了ひました。諸臣宮女

の之れにならふ者も多く、その屍の浮んだものは、十萬餘と記されて居ます。史上稀に見る悲慘の事でありました。

かうして宋は滅され、蒙古人の全支那の支配が行はれることゝなりました。この勝利に先立つて、世祖は既に屬國とした、朝鮮半島の高麗を案内として、我が國に使を出し、我が國をも服屬しようとしました。御承知の通り、北條時宗は之れを斥け、更に兵力で脅かしたのも撃退しました（文永の役。）ついで元は宋を滅し、海軍が自由になつたので、大仕掛の襲來をやつたのが、あの弘安の役です（一二八一年、宋の滅亡した翌々年。我が後宇多天皇の弘安四年。）支那の歴史さへ、生きて歸るもの僅に三人と記す程な大まけをしたので、くやしかつたのでせう、今度は北の方から、日本を攻めようとする謀をめぐらし、その準備も致しましたが、度々臣下が諫めたのでとう〳〵思ひ切ることになりました。

一寸こゝで高麗の事をいつておきませう。此の國は元の時には全く其の屬國となり、王子は質として元の都に送られ、國内には元の官吏が出張して政を見るといふ有樣となりました。世祖の婿となつた忠烈王の如きは、蒙古の風俗を眞似て、却つて世祖からなぜ國粹を棄てるのかと、注意された位でした。朝鮮人が強大な勢力に負けると、とかくかういふへつらひのやうなことをするのは、見のがせない事實であります。

世祖は日本には敗けましたが、南洋方面では大成功で、印度支那半島や、その附近の國々には、みんな元の勢力をふるひました。それでこの蒙古民族の支配した所は、アジヤでは日本、シベリヤ、印度

とを除く殆どすべてと、ヨーロッパの一部分でした。かういふ廣大な領地の開かれたのは、支那の歴史の上には、あとにもさきにも見られない所です。此の中が四つの汗國と、本家ともいふべき元室の直領地とに分れて居ました。地圖を御覽なさい。

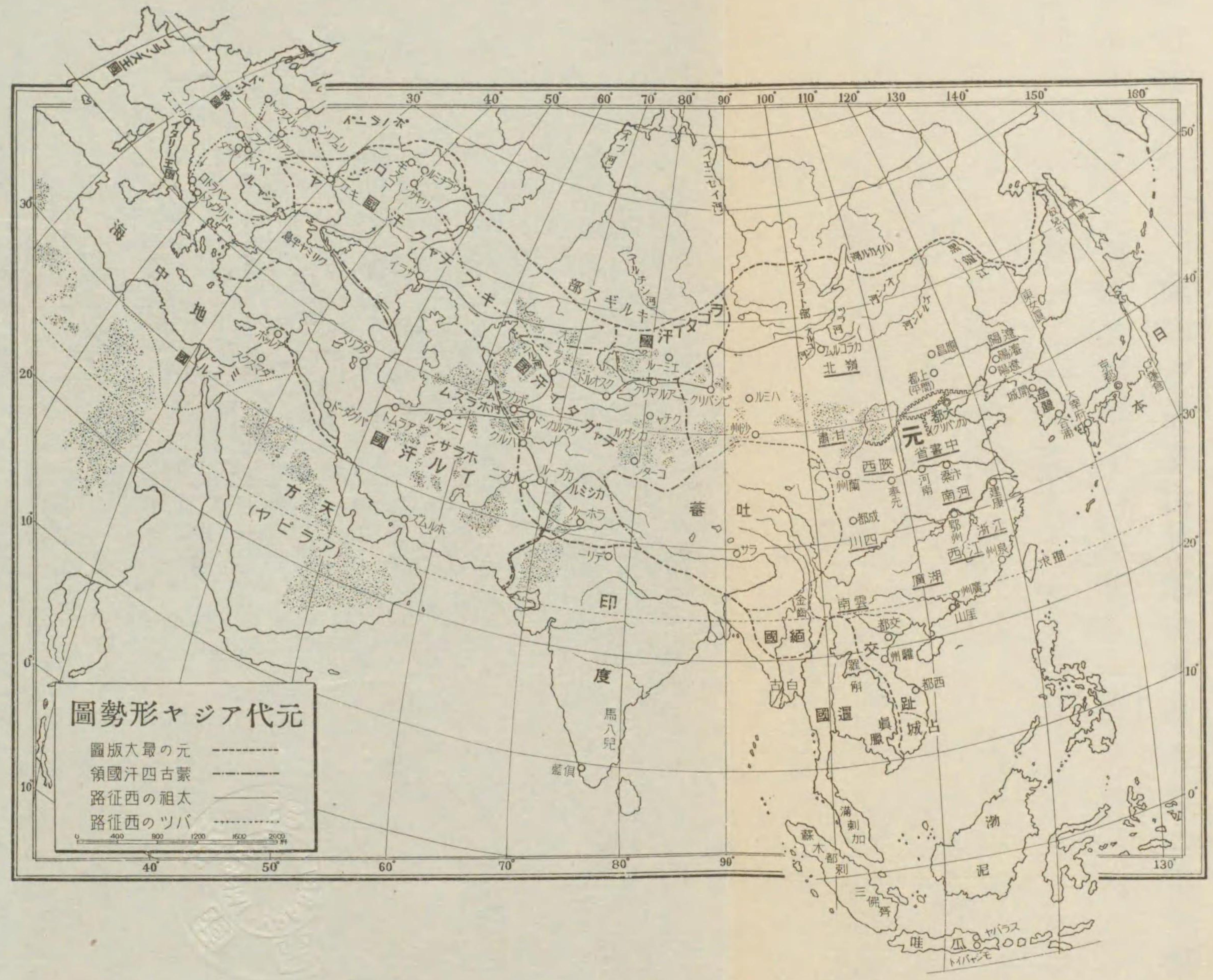
チパングの島

蒙古が興つてからいま申したやうに、大きい領土が開かれ、今までアジヤ、ヨーロッパの間にあつた小國が滅されたこと、チンギス汗以來の軍事上の必要で、道路をよくしたことなどのため、西方のペルシヤ人、アラビヤ人、ヨーロッパ人も、多く支那にまゐりますし、殊に元の世祖は、蒙古人を重く任用したのはいふまでもありませ

室の直領地とに分れて居ました。　地圖を御覽なさい。

チパングの島

蒙古が興つてからいま申したやうに、大きい領土が開かれ、今までアジヤ、ヨーロッパの間にあつた小國が滅されたこと、チンギス汗以來の軍事上の必要で、道路をよくしたことなどのため、西方のペルシヤ人、アラビヤ人、ヨーロッパ人も、多く支那にまゐりますし、殊に元の世祖は、蒙古人を重く任用したのはいふまでもありませ



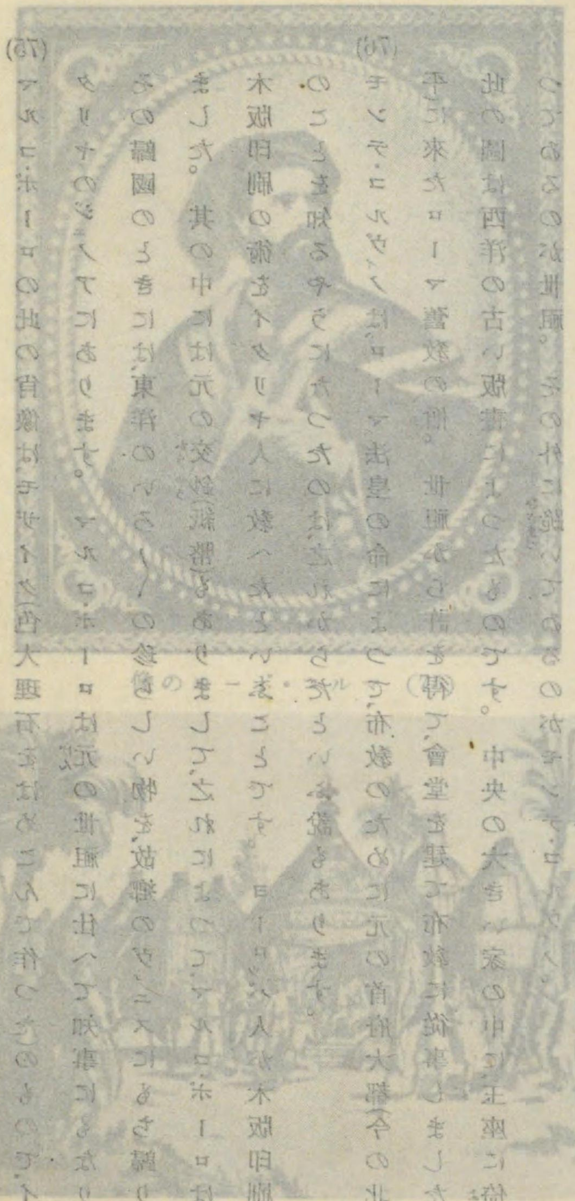
支那史の上では此の蒙古のときが、一番大きい國家を見たのです。此の圖は元の世祖(クビライ)の時を中心としての勢力の及んだ範圍は……で示しました。此の廣い領土の中が、元の皇室領とヲゴタイ汗國、チャガタイ汗國、キプチャク汗國、イル汗國とに分れて居りました。古いロシヤの王家の如きも、一時このキプチャク汗國の支配を受けたことがありました。

今の外蒙古北部の一部落から起つた酋長と其の子孫とが、僅か八十年ばかりでかういふ大きい領土を作つたのですから、蒙古人の武力といふもの丶恐ろしさもおわかりでせう。

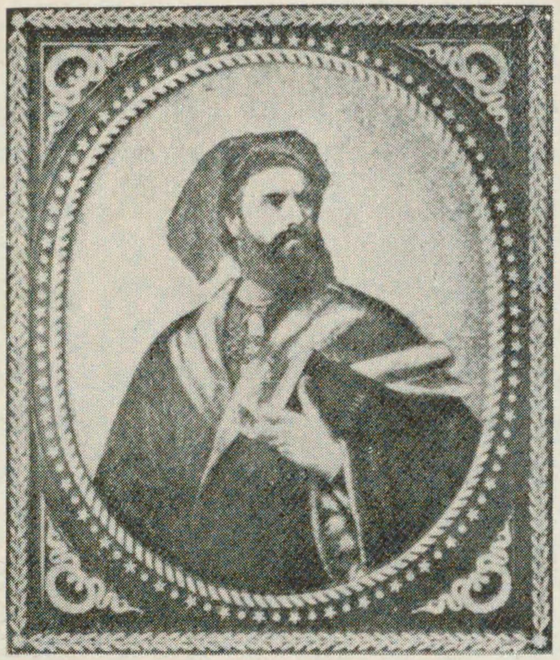
んが、なほ外國人でもすぐれた才能があれば、政事にでも何にでも用ゐたから、澤山の外國人が、その政府には仕へました。我が日本のことを、始めてヨーロッパに知らせたことで有名な、イタリヤのヴェニスの生れの、マルコ・ポーロといふ人もその一人です。

この人の父は商人で、二度目の支那旅行のときに、マルコを支那につれて來ました。此の十七才の若者は、それから二十年餘りも支那に居て、世祖に信用され、南方の知事にもなりました。一二九五年、故郷ヴェニスに歸つてから、東方で見たり聞いたりしたことを人々に傳へました。その話が後に旅行記として、世にあらはれました。其の旅行記の中で、我が日本はチパングの島といふ名で書かれて居ます（チパングといふのは、日本國といふ字の支那式の發音が、なまつたものだといひます。）それによると、この島は獨

立の國で、人は色が白く文明の程度も高い。さうして非常に黄金に富んで居る。この島の王様の大きい御殿は、その屋根がすつかり美しい黄金で葺いてある。それば かりでなく、御殿の中の敷石も、部屋々々の床も、またすつかり黄金でつくられて居るし、窓も黄金である。それから黄金の他に、寶石も無盡藏であるといふことです。我が日本の國も實際に、この話の何萬分の一かでも、黄金が出たら、どんなによかつたでせう。それでクビライ(世祖)はこの黄金をとりたいので、此の國に兵を出したが大敗をしたといふことも傳へて居ます。後にはあの有名なコロムブスといふ人の如き、このチパングの島に來たいために、冒險的な航海をして、まちがつてアメリカを發見してしまつたのです。まちがつていゝことを



(76)　モンデ・コルヴィノ　元の世祖に謁する圖



像のローポ・コルマ　(75)

圖るす謁に祖世の元　ノィヴルコ・テンモ　(76)

(75) マルコ・ポーロの此の肖像は、モザイク(色大理石をはめこんで作つた)のもので、イタリヤのジェノアにあります。マルコ・ポーロは元の世祖に仕へて知事にもなり、その歸國のときには、東洋のいろ〳〵の珍らしい物を、故郷のヴェニスにもち歸りました。其の中には元の交鈔(紙幣)もありまして、之れによつて、マルコ・ポーロは木版印刷の術をイタリヤ人に教へたといふことです。ヨーロッパ人が木版印刷のことを知るやうになつたのは、之れからだといふ説もあります。

(76) モンテ・コルヴィノは、ローマ法皇の命によつて、布教のために元の首府大都(今の北平)に來たローマ舊教の僧。世祖から許を得て、會堂を建て布教に從事しました。此の圖は西洋の古い版畫によつたものです。中央の大きい家の中に、玉座に倚つてゐるのが世祖。その外に跪いてゐるのがモンテ・コルヴィノ。